

「東京真田町の会」会報

日本タボス

平成20年12月20日



初秋の古城緑地広場

…… 郷愁を誘うふるさとの風景 ……

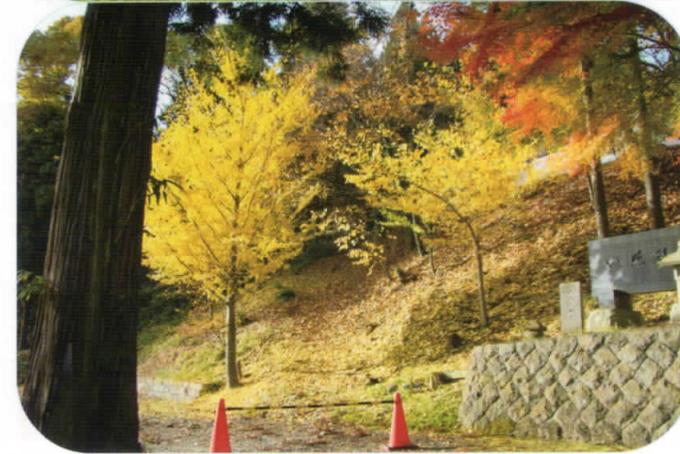
写真提供：広報部 武捨衛人
撮 影：2008.9.27

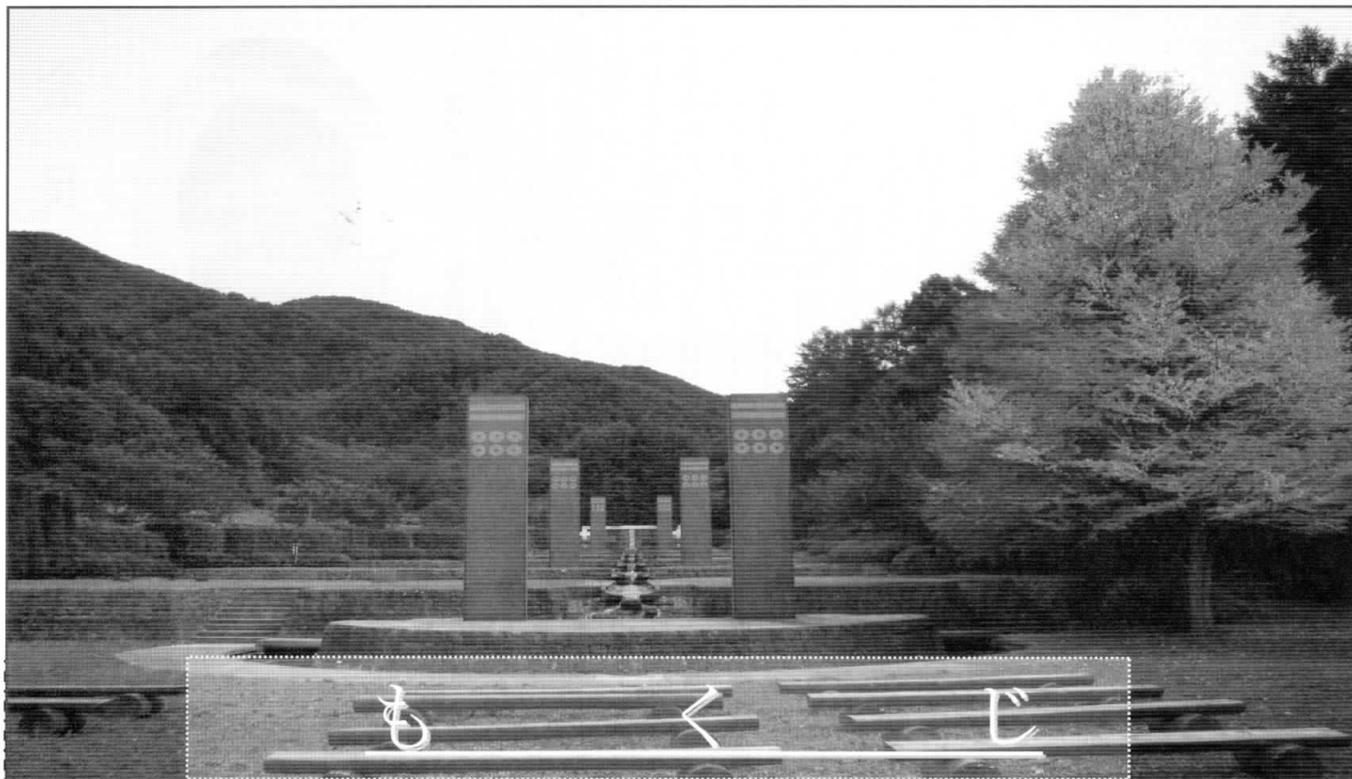
NO.

21

ふるさとの風景1 お屋敷公園・信綱寺

写真撮影：編集部 武捨 衛人





一	ふるさとの風景 1 お屋敷公園・信綱寺	編集部	2
二	もくじ	編集部	3
三	会長あいさつ	中島 正江	4
四	「上田ブランド」を活かすまちづくり	母袋 創一	4
五	明るい話題、夢あるふるさと通信に	丸山 正明	5
六	「東京真田町の会の皆様へ」 真田地域自治センター長	小市 邦夫	6
七	「現況の報告とお願い」	清水 俊治	7
八	ふるさとを想う皆様へ 真田の里から2	三井 和哉	7
九	「感性工学」	石谷 彰治	8
一〇	裁判員裁判の開始に当たって	山口 元彦	9
一一	仏からの贈りもの	石巻 伸夫	10
一二	アンデイの思い出	岩井 泰子	11
一三	故郷便り「地域の活性化を願って」	堀内 仁	12
一四	「思い出の嵐の日」	森本 幹生	13
一五	真田戦国史の足取りを訪ねて	長屋 京子	14
一六	何々ちゃんに逢えました	丸山 廣義	14
一七	貯める時代から殖やす時代？	花岡 節雄	15
一八	私のゴルフ人生（ホールインワン記念）	堀内 政	15
一九	「くだもの」	清水 民子	16
二〇	ふるさと便り	三井 芳郎	16
二一	日だまりの猫	柴田 小夜子	17
二二	「斎藤式指圧療法」	斎藤 勇一	18
二三	太郎山	内海 宏光	18
二四	第二十一回総会・懇親会のご報告	山口 元彦	19
二五	各部の活動報告	各担当理事	22
二六	ふるさとのコーナー	会長・事務局・編集部	23
二七	ふる里の思い出	内海 章緒	24
二八	同級生との奇遇	荻原 學	25
二九	親睦旅行に参加して	下横道 出身 桜井 和子	25
三〇	我が青春の思い出『大学一年の夏休み』	傍陽 出身 嶽栖 昶人	26
三一	会員の皆様の近況報告抜粋	事務局	27
三二	平成一九年度決算報告書	事務局	33
三三	平成二十年事業計画	事務局	33
三四	会員消息・編集後記	事務局	34
三五	ふるさとで聴いた流行歌・歌謡曲・演歌	編集部	38
三六	ふるさとの風景 2 金縄山実相院	編集部	39
三七	裏表紙（ふるさとの古城緑地広場）	編集部	40

会長 あいさつ

会長 中島 正江
(戸沢出身)



東京真田町の会の総会に上田市長、母袋様始め、丸山議長、市議の方々、真田町小市地域自治センター長、関連職員の皆様のご出席を賜り、誌上をお借りして、お礼申し上げます。ありがとうございます。御座いました。会員の皆様もなつかしいことばでお話が出来て良かったのではないのでしょうか。私達役員も心を込めてお迎えし、市長さんより詳しく故郷の現状をお話して頂き、出席された皆様もありがたく思われたことでしょう。

会員の皆様もお元気でお過ごしのことと存じます。又総会に出席された方々と楽しくお話が出来、懐旧のひとときが過ぎました。来年度も又多くのの方々に「ご出席頂き、お元気なお姿に接することが出来れば幸いで御座います。

さて今世の中では大変な事が多く、特に私が感じたのはお米の問題でした。

私達田舎で育った人間は、カビ、

変色米等まざっていたなら、匂いやなにかでわかるはず、ましてや、お酒や食料等に使用するとの事、選別する専門家はいなかったんでしょか。不思議に思ったのは私だけでは無いと思いますが、でも私達には故郷があります。上田市、真田町等でも安心なお米も手に入る、新鮮な野菜も手に入る、この幸せをかみしめられるのは真田町と言う故郷があるからだと思えます。

今年も真田まつりに参加させて頂き、おいしい空気、星空、つくづく夜空を眺める事、それはこの真田まつりの時だけ、花火と共にとても美しい、幸せな一時でした。

三井元会長宅に泊めて頂き、前庭で新鮮な野菜を頂くたび、田舎にかえつてよくなあーと思う瞬間でもあります。みんな田舎に帰っておいでよと呼んでいるようでした。

真田町会の会員旅行は、今年はおるさと探訪でした。長、傍陽、本原、寺、神社等を訪れ、夜は上山田温泉泊、翌日、荒砥城、善光寺等を見学し帰路につきました。皆様もどうぞご参加下さい。お待ちしております。

会員の皆様には今後とも、東京真田町の会の運営にご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

会員の皆様お元気でお過ごし下さい。

「上田ブランド」を活かすまちづくり

上田市長 母袋 創一



東京真田町の会の皆様には、お元気で活躍のことと存じます。日頃、ふるさとにお寄せいただいております。温かいご支援やご協力に対して、心より感謝申し上げます。

今年、新上田市が発足して3年という節目の年でありました。これまでの2年間は、新市の揺籃期として一体感の醸成や地域の交流を促進するための各種事業を実施するとともに、新市としての将来ビジョンを描き、その実現に向けたまちづくりの構想や計画の策定を進めてまいりました。その成果として、市民の思いを込めた第一次上田市総合計画を昨年9月に策定しました。今年はその計画や施策を具体的に事業化する年として、本格的な新上田市のまち

づくりをスタートしました。今年を振り返りますと、観光を市のリーディング産業と位置づける中で、「観光地づくりは地域づくり」を信念に、四季を通じた誘客を積極的に図りながら、上田市を広く全国に知っていただくための「上田ブランド」の発信・定着に努めてまいりました。

春に開催した「上田城千本桜まつり」には、約31万人のお客様をお迎えし、長野県内の桜の名所の中では一番の賑わいとなりました。

夏には「信州うえだ大花火大会」、「信州上田七夕まつり」や「映画ラストゲーム最後の早慶戦 上映会(ロケ地となった上田城跡公園野球場で上映)」等を連携させた「信州上田夏まつり」として開催した結果、昨年を上回る約17万人のお客様が上田を訪れました。

この秋には「信州上田紅葉まつり」に加え、諏訪市在住の画家、原田泰治氏の作品展覧会を開催しています。

原田先生には別所線電車をキャンパスにデザイン画を描いていたなど、「ふるさと上田の大応援団長」としてお力添えをいただいています。

また、NHK・BSのテレビ番組では、「好きな戦国武将」のトップ3に真田幸村公が選ばれ、「お城好きが選ぶ好きな城」では上田城が第1位に選ばれました。全国の皆さんを惹きつける真田氏の魅力は、真田一族が400年の時を越えて私たちに与えてくれた「真田氏ブランド」として広く全国に発信し、より多くの皆さんに信州上田を知っていただくことで、交流とにぎわいが生まれる魅力ある観光都市を目指してまいります。また「上田城千本桜」ブランドをはじめとする上田（真田）ブランドは、観光分野にとどめることなく、他分野の振興にも結び付けたいと考えています。

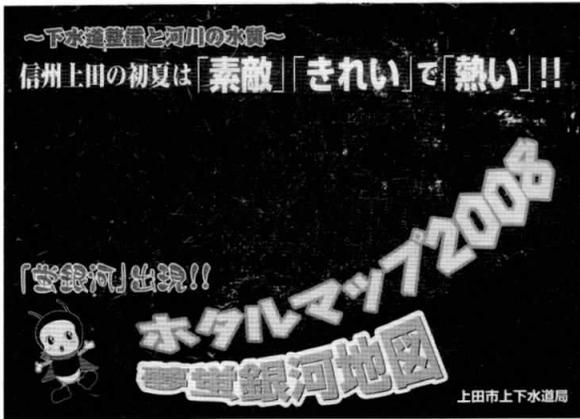
こうした取組を今後も進めていく上で、「故郷のために何かしたい」「故郷に恩返しをしたい」といった善意・厚意の実現を可能とするため、市では「上田市ふるさと寄附金事業実施要領」を定め募集をはじめました。皆様が応援したくなるような故郷づくりを今後も市民一丸となって進めてまいります。

5月の第21回総会に出席した際、中島会長が挨拶で「目を閉じ思い出す故郷は、神川でのカジカとり、あの桜の木は今…」と話されるのを聞

き、会の皆様の心の中には、いつも懐郷の思いがあることを強く実感しました。

また、合併した上田・丸子・真田・武石それぞれの魅力的な地域資源を活かした施策によって市を発展させていくとともに、豊かな恵みをもたらす自然や環境への感謝の心を忘れることなく、地域全体で大切に守りながら次の世代に引き継いでいくことが、地元に生きる私たちの努めと再認識したところです。

おわりに、会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。会報「日本ダボス」に寄せるあいさつとさせていただきます。



(関連記事が23頁三段目にあります)

明るい話題、夢あるふるさと通信に

上田市議会議長 丸山正明



「日本ダボス」第二十一号の発行おめでとうございます。また、新上田市二代目の上田市議会議長として挨拶文を掲載させて頂く機会を頂戴いたしましたことに対しまして、ま

ず厚く御礼申し上げます。真田町が新生上田市の四葉のクロバーの一葉となって早三年目を迎えております。この間、ふるさとに遠くから思いを寄せる皆さんとしては、どのような思いをお持ちでしょうか。

現在、上田市議会の議員三十四名のうち真田地域の方は三名であり、丸子地域が六名、武石地域が二名であります。それぞれ選挙で選ばれてきていますので、皆さん、個性豊かで上田思いの立派な方たちであると感じております。立場の違いから生じる考え方の差はありますが、「なるほど、こういう考え方もあるのか。」と私も毎日いろいろ勉強をさせて

いただいております。そして、「もし、合併していなかったら、この人たちとこうして話す機会もなかったのかな。」と思うにつけ、「こうした点からも、やっぱり合併してよかったな。」と改めて思うこの頃でございます。

さて、最近の上田市議会の状況でございますが、今年の四月二十七日の臨時会で正副議長が新たに選出され、四常任委員会等の委員も選任され、後期二年間に向けてスタートをいたしましたところであります。そして、六月、九月と二回の定例会においても多くの一般質問者による活発な議論が交わされ、さらに本会議における審議、委員会審査等をする中で、上田市の進むべき道の方向付けを行い、議会としての役割を果たしているものと自負しております。

しかしながら、地方分権の進展に伴い、ますます自己決定、自己責任の原則に基づく地域づくりが進められてまいりますので、市の重要事項の意思決定機関として、議会の役割はさらに重要になるものと考えております。

こうした中で、議会といたしまし

ては、行財政改革を強く求めてまいるとともに、議会も時代の趨勢を敏感にキャッチし、透明性を持たせながら市民の皆さんの声を今以上に反映しやすいシステムへ変革していく必要があると認識しております。

このため、例えば今回の正副議長選挙につきましては、所信表明演説を行うとともに初めて議場での投票による選出とし、市民の皆様により分かりやすい方法といたしました。このほか、現在、「一般質問のあり方」などについて、議会運営委員会等で鋭意協議し、改革を進めているところでもあります。今後とも市民の皆さんの負託に応え、主体的に活動する議会を目指してまいりますので、よろしくお願いいたします。

ところで、「岡目八目」という言葉がございますが、意外と第三者のほうが目に見えたり、気がつくことが多いようございます。普段ふるさとを離れ生活をされていらつしやる東京真田会の皆さんの新上田市に対する声を議会へも是非お寄せいただきたいと思っております。

今回の合併は、地域内分権、すなわち各地域の特色を活かしながら上田市全体として発展させていくというものですので、真田地域の個性も発揮されるものを目指しております。歴史的遺産、菅平高原を始めとした豊かな自然はもとより、なんといってもこれまで培われてきた住民の皆

さんの地域づくりに対するパワーという財産がございます。四地域のバランスを取りながら議会と行政が車の両輪となって「ふるさと上田」を発展させて参りますのでよろしくお願いたします。

最後に、今後も、この「日本ダボス」が「明るい話題、夢あるふるさと通信」になり、会員の皆様の絆として、心のよりどころとなることをご期待申し上げますとともに、交流がさらに深まり、東京真田会が益々発展されますことを、ご祈念申し上げます。

折節の頃、つれづれなるままにふるさとの畦道に咲くコスモスは昔日のまま観る人ぞ増え

「東京真田町の会 の皆様へ」

真田地域自治センター長
小市 邦夫

東京真田町の会の皆様にはお元気でご活躍のことと存じます。

合併時に真田地域自治センター長の職に就任して以来、毎年東京真田町の会総会にお招きいただきありがとうございますこと心から感謝申し上げます。

す。

総会後の懇親会では、会員の皆様との親交を深める楽しいひとときを過ごさせていただいています。和気藹々とした歓談の中でも「合併して真田町はどうなっているの。」と、合併後の真田地域を心配いただく声をお聞きするたびに、皆様のふるさとへの温かい望郷の思いを感じておりました。合併した上田市は、これまで順調に市政が運営され、真田地域の住民の皆さんの暮らしにも大きな支障をきたすことなく、早くも合併から3年が過ぎようとしています。



上田市の重要な施策のひとつに分権型自治の確立があります。各地域の特性を生かしながら地域の振興を図るとともに、地域のことは地域自らの責任で解決する住民自治を推進することによって、市全体の発展を目指すというものです。

旧真田町の区域を所管する真田地域自治センターは、これらの施策を進める地域の核としての役割を担っています。本年度は、地域自治センターの裁量を拡充する地域予算の導入や、

魅力ある地域づくりを行う住民の皆さんへの補助制度を統一するなど、地域内分権の仕組が次第に整いつつあります。そのような中、真田地域の現在の取組について、少し述べさせていただきます。

菅平高原では、住民協働による新たなイベントを開催する等、年間を通じた観光客誘致に取り組みながら、魅力ある「菅平高原ブランド」の形成を図っています。また、旧町からの構想を新市に引き継いだ真田図書館（仮称）整備は、市全体の図書館基本構想に基づいて、真田の郷にふさわしい図書館を建設する予定となっております。現在、施設の設計や完成後の運営方法について検討を進めています。教育面では、昨年「菅平小中一貫教育特区」が認定され、本年度から菅平独自の小中学校9年間のカリキュラムを実施しています。

その他、情報通信の地域間格差を是正する情報通信基盤の整備や、生活に密着した市道整備など、地域住民の皆さんが安全・安心で快適に暮らせるまちづくりの実現に向けて取り組んでいます。

現在わが国の経済は厳しい局面に立たされています。株価暴落と急激な円高などによる金融経済情勢の悪化の影響は、いずれ私たちの生活に及んでくると心配されるところです。この会報が皆様のお手元に届く頃には、日本経済に明るい展望があるこ

とを願ってやみません。
終わりに、会の益々のご繁栄と会員の皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。

「現況の報告と

お願い」

上田市議会議員

清水 俊治



東京真田町の会の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のことお慶びを申し上げます。今年もお招きをいただきまして誠に有りがとうございました。心からお礼を申し上げます。毎回のことですが、市ヶ谷のアルカディア会場に着きますと、いつもの懐かしい皆様が受付で私達を迎えて下さいます、ただただ感謝の心でいっぱいあります。市議会にお世話になりました。その頃は同級生も

何人か出席され、中学校時代の懐かしい話に時間のたつのも忘れて話に花を咲かせたものでしたが、年々同級生の出席も少なくなり、ついに昨年、今年はひとりの出席者もなく淋しい思いでありました。それでも、何度かお会いしている先輩の皆様との話は、懐かしい真田町のよき時代の話しに盛り上がるものであります。

ここで昨今の上田の話をさせていただきます。市長のごあいさつの中にもありましたように、「上田」を全国にPRする話として、観光問題があります。

全国お城ファンの中に上田城跡が一番に選ばれた話は会場でも、小林孝雄さんの紹介の中にもありました。また「上田城千本桜まつり」「信州上田七夕まつり」や、今年上田市宮野球グラウンドを舞台に「映画、ラストゲーム最後の早慶戦」の撮影が行なわれ、その上映会が盛大に開催されるなど、今年の夏は花火大会も含めて、昨年を大幅に上まわる約十七万人ものお客様が県内外から訪れたとのことでありました。

秋には「日本の原風景の息づくまち」として画家原田泰治氏による、田園風景の中を走る別所線を支援する事業として、原田氏の新作発表会や、上田ガスホルダーや別所線の電車にデザイン画を発表するなど「ふるさと応援事業」を展開しております。

す。

お招きいただいた時に、市長からも「ふるさと納税」につきましてもお話がありました。今全国の自治体で「ふるさと納税」について、具体的な運動が展開されております。上田でも「上田市ふるさと寄付金事業」につきましても事業メニューが五項目決まりました。それは ①「上田城復元」 ②「スポーツ施設整備」 ③「学校教育」 ④「上田の原風景保全」そして ⑤「市長に任せ」事業であります。

いずれにしても皆様方の深いご理解とご協力が不可欠で在りますのでよろしく願います。

また上田城跡公園整備も含めて、市民会館の移転につきましても検討がされております。上田市のシンボルとなる「交流、文化施設」の検討委員会も立ち上げられ、管理運営もふくめ研究中であります。

最後になりましたが、古さと真田との交流がこれからも続くことを願います。また会員皆様も益々お元気でご活躍いただけることをお祈り申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。



ふるさとを想う皆様へ

真田の里から 2

上田市議会議員

三井 和哉



「日本ダボス」第21号の発行、おめでとうございます。また、第21回定期総会にはお招きいただきまして、ありがとうございます。

帰ってきてからも、手紙をいただいたり、メールをいただいたり、その度に皆様のお顔を思い浮かべております。

ここ、真田の里を見渡せば、脱穀も終わり、黄金色から土色に変わった田んぼと、紅葉が始まった山々の彩が、里に秋が来たことを感じさせます。

ただ、8月末には真田町を中心に局地的集中豪雨が発生し、幸いにも人的被害はありませんでしたが、床下浸水・崖崩れ等が何ヶ所かで起こりました。

局地的集中豪雨はここ最近の顕著な気候変化ですが、これも地球温暖

化の影響かな、と思ったりもしています。

松茸は今年は当たりだったようで、松茸山を買った人からかなり早い時期に「もう元は取った」という話を聞きました。お米も平年通りに採れたようです。

さて、ふるさと真田町で、今一番の関心事で、住民の議論の的となっているのは、合併に伴う都市計画区域の新たな設定と、それと不可分の都市計画税が真田町に課税されるかということですか。

真田町の住民とすれば、「必要なインフラ整備は既に済んでいるのに、計画区域に設定し、計画税を取って何をしてくれるつもり？」「田舎で限界集落の心配さえある地区もいっぱいあるのに、『都市計画は節度ある発展のため』って、実態を理解しているのか？」などなど、疑問が出され、さらに火に油を注いだのは、合併協定書では「都市計画区域設定の無い真田町及び武石村の区域設定については住民意向を尊重しながら・・・決定し、確定後、新たに都市計画マスタープランを策定する」としているにも関わらず、住民意向も聞かなければ区域決定もしていないのに、いきなり都市計画マスタープラン(素案)を作って、「都市計画区域は新市全体に広げることが望ましい」という発表がされたことです。「順序が逆だ」「合併協定書に違反し

ている」という声上がるのも当然と言えます。

最後に、上田市では現在、団体補助金のあり方について、運営費はやめて事業費について補助金を出す、という方向で見直しを進めており、補助金が減る団体もあれば逆に増える団体もあります。

「東京真田町の会」については、どこまでが事業費として認められるかによると思いますが、ともあれ、伝統ある「東京真田町の会」の灯を消すことなく、尚益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げ、拙い文章を終わらせていただきます。

「感性工学」

上田市在住 石谷 彰治
(中横道出身)



昨年4月から、上田市の公民館活動の一環として、生涯学習を目的とした「ことぶき大学」なるものに入校した。一般通念でいう「老人大学

である。就学期間は2年、友人の誘いで月1回通うことにした。

私は、上田市の飲み水について研究するグループに加わることにした。仲間は6人で信州大学の先生にご指導頂きながら、染谷台の広域浄水場を始として、旧長村・傍陽・本原・丸子・武石等上田市周辺の簡易水道の現況を調べることになった。中組や三島平の水源を巡り、私の育った傍陽村のここかしこを尋ね歩いて、思いがけず故郷の村々の今昔を垣間見る機会となった。

今様にいうならば、僻地に近い当時の村むらの佇まいも今では、都会と変らぬ瀟洒な家々が立ち並び、半世紀前の記憶を呼び戻すのに少々時間がかかった。住む人も世代が代わり、若い世代は外に勤めに出ているのか人影も疎らで、ひっそりして音もない。ときたま見覚えのある家に立ち寄ると老人とおぼしき家人が応対してくれたが、聞けば、私よりも一まわり以上も若い世代の方で、当時の話題と歯車が合わない。ようやく私のことを覚えていてくれた人のお宅を尋ねあて、60年前の終戦当時(1945年)の話をする事が出来た。あの頃の村長さんの話・学校の先生・復員された私より数年先輩の方々が演じた村芝居の話、茶色に変色した写真などを見せてくれた。横道にある番屋の辻の石尊の常夜灯や庚申塚の佇まいが、たまらなく

懐かしい。いまは近くに住みながら、こんなにも過去の記憶がいとおいしいものなのか、当時から村唯一の食品や日用品を扱う店だった西木屋さんも健在であった。無愛想だが心やさしい先代ご夫婦の温顔が目につかぶ。今は、真田町の町議を退いた 跡取りの堀内唯行さんご夫妻が商いを引き継いでいらつしやるという。スーパ一の進出で極端に少なくなつた小売店を近隣住民のために続けることは、並大抵ではなからう。本当にご苦労様です。

昔の知り合いを訪ねるのは、別の理由もあった。「ことぶき大学」では、自分の研究課題の他に二の聴講講座がある。その一つに「感性工学」という耳慣れない自然科学分野があることを知った。未だその学問の概念を掴み切れていないが、従来の自然科学は、生物、物質の生成の起源を探り解析・改善を加え、人間生活発展に有用な発明発見をする学問と想っていたが、どうもこの分野はそれほど平たく言へば、人間の営みの中で人間同士が関わり合って、心地よい生活環境や楽しみを利便性だけにとらわれず、住みやすい人間社会を造り出す方法手段を学問的に探り解明する学問分野らしい。

たとえば、物品の流通システムで「地産地消」という仕組みがなされているが、農産物が生産者から直接

地元の消費者に手渡され、中間取引が介在せず、新鮮で格安な値段で商取引が出来る流通手法であるが、一般通常の取引と違うところは、競争原理の働かない所にあり、早魃・洪水等自然災害や人手不足等のリスクを消費者が負うことになる。しかし相手の見える商取引には、人の心が通じあえる利点がある。相手が苦しいときは自分も甘んじて苦しみを共有する事になる。

利益や効果ばかりを優先すると、科学の究極は、ロボット主役の社会になってしまうと言う危機感が根底にあるという。人と人の繋がりが希薄になれば、人間社会は成り立たなくなると言う警告だろうか？今回昔馴染んだ村々を回って、あまりにも人の気配が無く、寒々とした空間に映ったのは、私一人だろうか？

ヨーロッパ アルプスの谷間で暮らす村人のように貧しいながら隣人同士が心豊かに助け合って行く様子をテレビの画像をとおして羨ましいと思うのは、やるべき仕事の義務は無く、子育ても終わった年金暮しの年寄りのわがままな「たわごと」と言うだろう。無理もない。いま現役の人たちは、必死で現実の競争社会に生きているんだから。アメリカの金融会社の破綻から全世界に広まる社会不安は、一過性の社会現象とは思えない。もし不幸にして、私の予感が当たったら、人生の大半を終えた

人なら気楽に言えるが、子孫の時代に現実になったらと不安でならない。昔賢人は、末世を憂い、出家の道に入り、悟りを開いたというが、その頃に比べたら格段に人々は豊かになったと思うが、歴史は繰り返し、未だに宗教・民族・思想の違いから殺戮の繰り返しが終わりを告げない。末世とは、永遠に続く物なのかもしれない。「感性工学」が上手く機能してくれる事を念じて止まない。

裁判員裁判の

開始に当たって

副会長 山口 元彦



平成21年5月から、市民から選ばれた裁判員が刑事裁判に参加する「裁判員裁判」がはじまります。新聞やテレビなどで盛んに広報が行われていますので、皆さんご存じのことでしょう。すでに、「あなたは裁判員候補者に選ばれました」という通知を受け取られた方もいらっしゃる

かも知れませんか。その方は、嬉しいと思っておられるのか、あるいは迷惑だと感じておられるのか、どちらでしょうか。

裁判員制度については、賛成論と反対論が激しく対立しています。賛成論は、国民が裁判に直接参加することは、国民が主権者であることを司法の分野で具体的に実現するものであり、また、市民がもっている経験や感覚を裁判に反映することができることなどをあげています。反対論は、司法における国民主権や市民の経験などを大事にするなら、被告人が本当に犯罪行為をやったと言えるかどうかを、職業裁判官抜きで市民が判断する「陪審制」にするべきだとか、重大な事件については大々的なマスコミ報道がなされ、裁判員はその影響を受けて予断を持ちやすく、果たして虚心に判断できるかどうか疑問だとか、また、裁判員裁判は重大な事件だけが対象となっていてののに、市民に有罪無罪だけでなく量刑（死刑か無期か、有期懲役なら何年にするか）まで判断しろというのは精神的負担が重すぎるなどなどをあげています。ほかにもたくさんありますから省略します。

さて、私としては、賛成論にも反対論にも、どれももつともだと思われるところがあり、どちらの立場に立つべきか決めかねている状態です。

考えてみれば、未だ実行されていない段階での抽象的な観念に基づく議論ですから、どの可能性も否定はできないのは当然かも知れません。実際にやってみれば、落ち着くところに落ち着くはずであり、その状況を基にしてさらに工夫していくべきことなのでしょう。（もつとも、その間に裁判を受ける人は、いわば実験台にされるようなものですから、あとになってから、あのやり方はまずかったというだけではすまされない気がしますが・・・）

ですから、裁判員候補者に選ばれた方は、個人的な喜びあるいは迷惑感を一応横に置いて、賛成論の言う「主権者としての役割」や「市民的な経験や感覚を反映させる」という観点に立ち、反対論があげる「マスコミの影響」に注意しながら、プロの裁判官に遠慮しないで市民的な知識・経験・感覚に立って十分発言し、「刑罰の重さを決める精神的負担」に耐えて、やってみたらいかがでしょうか。大変だとは思いますが、またとは得られない貴重な体験ができるのではないかと思います。

ちなみに、刑事事件の弁護人になる立場から一言だけ言わせてもらえば、裁判員裁判では数日間連続の審理になるため、今日の証人尋問の結果を検討して明日の審理に備えるためには、徹夜に近い状態が続くことや被告人との打合せが十分にできな

いことなどの心配があります。年金受給年齢に達している身では、果たしてそれに耐えられるかどうか不安ですが、皆さんが裁判員として頑張つて下さるなら、私もなんとか弁護士人として努力しようかと思つております。

仏からの贈りもの

曲尾出身 石巻 伸夫



今年結婚して49年になる。振り返ってみると妻と連れ添つてからのほうが永いのに、これと言つて特に記憶に残る大きな思い出は少ない。あるのは月並みな記憶だけだ。しかし、この事だけはこれが人生か、と思ひ出されることがあった。

それは数年前に、京都の大学時代の同級会の通知が届いた時のことである。妻にこの会に「夫婦で出席しようか」と相談した。ちょうど季節は桜の花が満開の時期でもあり、二人で相談をして「京都に行くなら同級会だけでなく、我が家は上野の寛

永寺の檀家であり、この東叡山寛永寺は天台宗で天台宗の総本山は比叡山延暦寺であるので、そこにもお参りに行く」ということになった。またせつかくの旅行なのでもう一箇所回ろうと妻に相談したところ、天台宗に関係深く比叡山の東塔南谷にある「三千院門跡に行きたい」という。そう言えば「デュークエイセス」の歌う「女一人」の歌詞のなかに「京都大原三千院」とあり、この歌がはやったころ頭の中に、三千院は京都の中でも最も京都らしいところであるとの印象が強く焼きついてい

たし、桜の満開時期でもあったのでそこにも行くことにきめた。そしてその日がやつて来た。妻と新幹線に乗り、これからの様な旅が味わえるのか、不安と楽しみとを胸に抱きつつ京都駅に立った。

その日は初めに昭和33年に卒業した母校に立ち寄り、思ひ出の場所では我が青春時代を振り返り、その晩は宝ヶ池のプリンスホテルにて懐かしい同級生と語り合い、妻にもその場の雰囲気味わってもらった。

翌日は朝からタクシーを借り切り、天台宗総本山の比叡山延暦寺に向かった。途中車を降りて桜並木の桜の花を観たり、眼下にはきらきら光る琵琶湖を眺望し、なんともいえない景観を堪能しながら山頂の根本中堂に到着した。二人で根本中堂に入り諸仏にお参りし、祖先の御霊にも詔

を捧げ家族の安寧を祈った。

因みに、天台宗・比叡山延暦寺・概略によると

宗派 天台宗総本山 開祖 最澄（伝教大師） 経典 法華経、阿彌陀経、大日経、本尊 釈迦牟尼仏、阿彌陀如来、薬師如来、観音菩薩 お唱え 南無阿彌陀仏 本山 比叡山延暦寺（滋賀県大津市） 歴史と教え 仏教の一派で最澄が遣唐使とともに唐にわたり円・蜜・禅・戒を吸収天台宗を開設。鎌倉仏教の法然・一遍・日蓮・道元・栄西らが天台宗に学んだ。

総本山に御参りも済ませたので、本堂を背景にして何枚も記念写真を撮ったり、お数珠やお札を求めて清々しい気持ちになったところで、幽玄な森に囲まれた霊峰の比叡の峰にお別れをし、次の目的地に向かって山を下った。

その車中、妻と永年の夢であった総本山へのお参りがかなったことを喜び合った。次の目的地は三千院の所在地大原。京都市に向かう道路で山を降り切らないところを右に折れ、大原方面に走らせた。山に挟まれた谷間を走ると、やがて比叡山麓の小さな盆地にたどり着いた。春のどかな田園風景が広がる大原です。

桜の花や石楠花の花が咲き、霧島つつじが鮮やかな花をつけ、大原の里らしい風情をかもしていました。私が昭和30年前後京都の学生だっ

た頃は、この大原や八瀬の山里から町に出て「紺の着物にずきん、脚半姿で柴や薪」などを売りに歩く大原女をよく見かけたが、信州育ちの私には異文化として強く印象に残っていた。

車は門前町の手前の駐車場に到着、参道を行くと右に「三千院の門」があつて、厳めしく格調高い三千院の石塀には圧倒された。

玄関は正面右にあり、右寄りから順路となりいくつかの仏様が祀られていたが、その奥には茶室があつて、そこは赤い毛氈が敷かれていて外には池のある山水が眺められ、桜や石楠花が咲き誇り、また本堂に通じる廊下に囲まれた池を取り巻くこれらの風情は、高貴この上ない茶室でした。車は観光タクシーだったので運転手も一緒に茶に誘い、三人で茶を頂きながらしばし眺めに酔ったり、彼の名ガイドに聞きほれたりした。

ガイドによれば「三千院の往生極楽院の阿彌陀三尊座像の大和座りをした観音・勢至両菩薩が特に有名です。両菩薩は信心深き人が亡くなつたならば直ぐに抱いて天国へいけるように、阿彌陀様を促せるように大和座りにしているのです。阿彌陀様、これから直ぐに天国へ行きましよう」ということで有名だと説明してくれた。

お茶も飲み終わり、すばらし景色も眺められたし、ゆっくりくつろげ

たので、本堂に行つてそのご本尊を拝みましようと席を立ち、本堂に通じる廊下に出た。すると庫裏の方から人が一団来るのに出会つた。その中に見覚えのある有名人がいたので思わず「ふうさん」と叫んだ。向こうも「石巻さん」とびっくりして叫んだ。一団の人たちも礼拝者も皆何事だと思つて注目した。

「ふうさん」とは東京での知り合ひだったので、まさか三千院で合うなどとは余りにも偶然で、ただただびっくりするばかりだった。本堂には彼女が描いた襖絵があり、その絵を三千院小堀光詮門主の案内で、中国中央電視台のカメラマンとそのスタッフ、その絵の取材と撮影に来た」とのことであつた。中国のテレビスタッフは私と「ふうさん」との遭遇もニュースとなるので「インタビュウさせてくれ」と申し込まれ、ふうさんと小堀門主と小生の三人は一緒に手を重ねあい、ポーズをとりその場面で門主が「これは仏様のお導きですよ、本堂にお導きですよ」といつて下さつた。アナウンサーが「貴方は如何してふうさんを知っているのですか？」と質問があり、私はいきさつをかいつまんでお答えした。この取材は「中国の全国ネットで放送される」と聞きまたびっくりした。「ふうさん」とは中国出身で「傅益瑤(フーエキヨウ)さんといひ水墨画家で、「比叡山延曆寺」、「永平寺」、

別所の「常楽寺」ほかに襖絵多数あり、NHKにも時々出演するなど活躍中の人です。女史とは、私と無二の親友村田寛氏の紹介で面識があつた。また、つけたしなから別所の常楽寺の半田孝淳住職はその後天台宗総本山比叡山延曆寺の座主をお勤になつており、三千院門跡からは延曆寺の座主を何代も輩出しておるので小堀門主も天台宗総本山の座主になられる方と聞いております。

終わりに、「この小さな京都のたび」を書いたことが、自然の美しさや、人との偶然の出会いがあつたりしたこと、同行した妻も「大変良い思い出となつた」と喜んでくれたので我が人生の「宝物」となつていくことに気が付いた次第です。編集者に感謝いたします。

アンデイの思い出

中原出身 岩井 泰子



私の毎日は、朝の散歩から始ま

た。我が家の愛犬、アンデイと共に。ふさふさとした栗毛と白の交じつた毛の雄のシェットランドシープドッグ、コリーの小型犬だった。

清々しい朝の空気を胸一杯すつて、四季おりおりの自然にふれながら、家の近くを三、四十分歩いた。「今日は寒いね」「きれいな花が咲いたね」とまるで子供と話しをする様に。

暑い時の散歩は苦手だったが、寒い時期は大好きだった。夫が未だ在職中は、土、日曜日の休日には必ず遠くの公園まで連れ出し、網を放して遊ばせると全力で飛び回って喜んだ。その姿はまるで圧倒されるほど、雄々しく感じられた。

家の中では絶対に排尿も排便もしないので、雨の日も風の日も本当に三百六十五日散歩に出た。天気が悪いからといってがまんさせるなんてとても可愛そうで出来なかつたから。雷が大嫌いで、雷が鳴り出しそうになると、気配でわかるのか敏感にも震え出し、私のそばにびったりとくっついて離れようとしなかつた。

自分が犬であるという認識は全くなく、家族がテレビを見たり、お茶を飲んだりしているとき必ずその輪の中に入ってチョココンと座って団欒を楽しんだ。

誕生日のケーキには、いつもパパと孫の佑君とアンデイの三人(?)の名前を連ねて入れてもらったね。生まれ月が同じだったから。そして

毎年、年の始めに撮る一家揃つての記念写真には、佑君と並んで必ず、一番前に写つていたね。ひとりっ子の佑君とはまるで兄弟のように。

大切な家族の一員として生活を共にして来たアンデイも、十二才を過ぎた頃から、少しずつ白毛が見え始め、寝ている時間が多くなって、何となく老いを感じさせる様になって来た。

去年十一月、ちようど今から一年前、急な嘔吐と下痢にびっくりし、病院で検査をしていただくこと急性腎不全との事、そして十日間の入院生活となつた。持っている臓器は人間と同じなので犬も病気は人間と同じだと言う。

今迄、一度も外泊をした事がなかつたアンデイは、体調が悪い上に家族と離れてしまったショックで全く食欲が無くなつてしまった。そして病状が落ち着いて来ても全然食欲が出ない状態が続き、朝夕、面会に行つても日に日に表情が乏しくなっていくのが感じられた。

結局家に連れて帰り、通院で診ていただく事にする。帰りの車の中で喜び様は、さつきまで病院にいたあの無表情の様子とはまるで別の様。ああ、こんなに家族と一緒に家に帰れるのが嬉しいのか。知らない病院でどんなに淋しかったのかと口に出して言えない故に可愛そうで仕方なかつた。

それから日増しに体調も回復して来たが十三才という年令の為か、次第に遠出も出来なくなってきた。六ヶ月を過ぎた四月、食欲不振と無気力な様子に再び病院へ、今度は腎不全。やはり腎臓が悪かったのか。人間で言えば「人工透析」が必要な状態だと言う。そして良くなることは「無」と診断された。進行を止める方法しかない。それから一週間に一度の点滴注射、腎臓食の生活が始まった。

少しでも体調が回復すればと願って鶏の笹身をゆでてすりつぶしたり、ゆで卵の黄身をペースト状にして薬と一緒に注射器で少しずつ口に入れて食べさせた。「アーちゃん、御飯よ」と抱っこしてひざに座らせ、まるで赤ちゃんとミルクを与える様だった。じっと私の顔をみながら何かを訴えるような目で、「ゴクン」「ゴクン」と飲み込んだ。「ああ、良かったね。今日は食べられたね」「これ位食べないと元気になれないよ」こんな会話をし一進一退を続けて半年。体重は毎週行くたびに減っていった。

こんな調子ではこの夏を乗り切れるかと心配したが涼しさと共に食欲も出て来たかと思われほっとした矢先だった。点滴をしていたいた翌日、容態は急変した。夜中、数回苦しうなり声を出したが朝まで寝入った。そして又何となく具合は悪そうだが自分の布団で寝ていた。

心配だったが午前中夫にアンディを頼んで少し外出した。そして帰宅して間もなく「御飯食べようね」と抱き、水を一口にしてそのまま私の腕の中で静かに息をひきとった。まるで寝入るようにおだやかに：「アンディ、アンディ」呼んでも何の応答もない。悲しい、本当に悲しい。いつかは必ずこういう日が訪れることは覚悟はしていたが：

十月二十日、享年十四才二月。人間なら八十三、四才、寿命を全うしたのか。傍に一緒にいた夫が「いつも世話して面倒をみてくれていたお母さんの帰りを待っていたんだよ。そして帰ったお母さんに抱かれて安心して天国に旅立ったんだよ」と言った。

共に過ごした色々な思いが脳裏をかすめる。最期まで本当に良く頑張ったね。偉かったよ。家族皆に愛され、そして可愛がられたアンディ。沢山の愛をありがとう。大切な大切な家族の一員を亡くして皆が淋しさで一杯だ。

今、アンディは夫が作ってくれた立派な祭壇の真中で骨つぼに入って安置されている。沢山の遺影と大好きだった笹身ヤクッキー。出来上がったばかりの追悼アルバムと一緒に並べられて。家族が「アンディ」「アーちゃんに会いたいな」と言っている。仏壇の前で話しかける。自分の間、共にすごした生活の思い出はアンディ

イの記憶として消える事はないでしょう。やがて時が解決してくれるでしょうが……。ふとどこからかすっとな顔を覗いて来る様な錯覚に陥る時がある。アンディの冥福を心から祈りたい。

今、私は朝起きると仏前の水を取り替え「ひとり散歩に行つて来るからね」と朝の挨拶をし散歩に出かける生活に戻った。健康は本来にありがたいと感謝しながら。

故郷便り

「地域の活性化を

願って」

下横道出身 堀内 仁



東京真田町の会の皆様お元気ですか。原稿の依頼をうけましたが、正直なところ何をどう書いたらいいのかわ迷っている内に時間ばかりが過ぎてしまいました。そんなある日「そ

うだ。上手なことを書こうと思っただけじゃない。今、自分が取り組んでいることを書いてみよう」と自分に言い聞かせて書いたのが以下の文です。というような訳ですので、気楽にお読みいただければ幸いです。

七年前に真田町傍陽の荒廃農地の活用を願って、活性化組合を立ち上げました。名称は「日だまりの里」です。活動は五千平方メートルの荒廃農地の草を刈ったり、伸び始めた灌木を伐り払ったりして、そこを開墾してのソバづくりです。

今年七月二十七日にソバを蒔きました。大きな畑でも二十人くらいが横に並んで、上の方から下の方に向かって左右に蒔きますと、一時間程で終わります。その後は、なかなか山の中腹と荒廃農地を整備して造成したパストボール場に移動し、ゲームを楽しみます。一廻りしたところで、野原での焼肉パーティーです。ソバは早魃の年でも、蒔いてから四日目くらいで芽を出し、一か月もすると可憐な真っ白い花を咲かせます。採ってきて一輪挿しにするととてもきれいです。

九月二十一日にはソバの花見を兼ね、横道公会堂でソバ打ち大会を行いました。初めに、家に持ち帰る分を打ちます。続いて、その場で食べる分を打ちます。庭に据え付けた大きな釜で茹で、それをおつまりにして楽しい宴会です。

例年十月下旬にはコンバインで刈り取りをしてもらい、十二月には製粉をし、役員で一キログラムずつ袋詰めをします。これは会員への配当分です。十二月の十日前後には収穫祭です。公会堂の大広間にビニルシートを敷き詰め、ソバ粉を量る人・鉢を押さえる人・捏ねる人・それぞれ何か所かに分かれてソバ打ちです。今年の収穫祭は、ちょうど真田町の会の皆さんに、この一文をお読みいただく頃になるでしょうか。昨年度の出席者は四十五名。特別会員の前真田町長箱山夫妻を始め、上田市内はもとより小諸市や長野市からも参加がありました。十一時三十分頃には、母袋上田市長夫妻も自家用車で駆け付けてくださり、ソバを食べながらの和やかな一時を過ごしました。

会員の中には、自分でもソバを栽培し、石臼で粉にしてソバを打った人、ソバ殻を使って枕をつくった人等もいます。標高七百五十から八百メートルの、いわゆる「霧下ソバ」は冷たいきれいな水と合致し、たいへん美味しいです。親戚や知人へのおもてなしにも最適です。

ガソリンや石油など燃料の高騰によりすべての物が値上がりし、経済の先行きが見えません。毎日と言っ

ていいくらいに犯罪や事故の報道・地球温暖化の問題など、暗いニュースばかりが続きます。そんな中に出て、田舎だから出来る、自分達で出来る、手軽に出来る地域の活性化を考えています。あのいたずら者の猪は、幸いソバを食べません。当分は肥料もいりません。除草だけです。東京真田町の会の皆様、よろしかったら故郷でソバづくり挑戦しませんか。また、行政にたよるのでなく、自分達から出来る・自分たちで出来る地域活性化の灯火を、それぞれの地で掲げませんか。これからも活性化組合の皆さんとともに故郷を守り、地域の活性化を図るべくさらに精進・努力をしてまいりたいと思っております。

文末になりましたが、東京真田町の会の益々のご発展と会員の皆様のさらなるご健康をお祈り申し上げ筆を置かせていただきます。

《パストボール》

パスト(PASTO)は牧草地または草原のことを言う。テニスボール大の中空ボールをスティックで打ち、ホールにカップイン、またはピンを転倒させ、スコアを競うスポーツゲームで、一九九八年に上田市で考案され、財団法人日本レクリエーション協会の推薦を受けたフアミリースポーツである。

「思い出の嵐の日」

入軽井沢出身 森本 幹生



ゴウゴウとした墨を流した様な空を黙々とした雲が飛んで行く。そんな空をポツリ一人、校門の前で見上げていた……。

「職員会議あるから校門で待っていて」と言って校舎に入った太田先生はなかなか来られなかった。一時間ほど過ぎたのだろうか、先生は新聞紙に包まれた何かを渡され、写真を撮って下さった。

一里の道を荒れ狂う白く伸びた一本道を一人帰ったのだが、それが傍陽小学校との最後の日となった。台風は、りんごの木を何本も雑倒し、大川の土手を壊し大暴れして去っていった。

新聞紙に包まれた中身は、太田先生が学生時代から机の上に置いていたと言う、地球儀であった。「森本君ならできるから、ガンバッテな！」包みと一緒に贈られた言葉は今でも忘れられない。

緑の壁のような真田で育った少年にとつて、東京は余りにも冷たい世界に思えた。塾通い、中学受験、遊びの途中でも帰って行く仲間の、そうした生活が理解できなかった。

勉強って何の為にするのか？ ハイジミみたいな生活をしてきた者にとつて全く別の世界に見えた。そんな中で、写生会などで賞を取る事に悦びを感じる様になり、自然と美術部に入学していった。

忘れられないのは、中学一年の時に部員と上野まで一緒に見に行った「ミロのビーナス」であった。ピンク色に汗ばんで見えたが、素晴らしかった。(その後ルーブルで見た時には、そんな風には見えなかったが、バランスの良さは変わらなかった。)

そんな中、友人と美術館、銀座の画廊と休日には出かける様になっていったのだが、高校二年時には都美術館まで、ある公募団体に出品すべく、額も付けず、一人持っていた。運良く入選したのだが、大人ばかりの中、ただ一人高校生が、額も付けず無謀であった。

当時、学生運動が東大闘争を頂点として、とても盛んであった。自分も自分なりの生きる思考の元になる道を考えざるを得なくなり結局、芸術の道をえらんでしまった。良かったのか……。

それにしても、当時 理想に燃えた行動は 思想は何処に行ってしまった

ったのか、詩人 小説家志望の彼等
は？ 何処へ……。理想に燃える
世の中を良くしようという気持ち
がなかなか見えてこない今の社会、
報道で聞かされる腐敗の数々……。
若者が夢を持ち大いに活躍するよう
な世の中になる事を切に願って止ま
ない。

最後に皆々様の健康と幸福 地域
の発展を心から願っています。
個展開催御協力有り難う御座いまし
た。 平成二十年 秋吉日 (記)

真田戦国史の

足取りを訪ねて

菅平出身 長屋 京子



およそ五百年以上昔の戦国時代！
真田一族の話は、小さい時から耳に
していた言葉ではあるけれど、身近
すぎたの歴史は高校生位まで身のま
わりの何気ない出来事と混同してい
た。

大人になるにつれ、この山、山、
山の信濃に歴史に登場してくる世界
がだんだん身近に。近年はテレビ、
雑誌で取り上げられるようになり、
大勢の知るところになっていく。そ
して忍びの者が切立つ岩山を音もな
く動き回ると言う、角間溪谷を訪ね
た時も、ものすごく興味を持った。

そして傷を負った忍者が別所温泉
で身体を素早く癒して、風の如く森
のなかへ、気がつけば近江まで、そ
して大阪へ、その働きは想像に難い。

最近、風林火山、真田太平記など
かなり有名になっていくが、上田城
以外に訪れた場所もなく、上田駅か
ら菅平まで、まさに長村に相応しい
一本道を往復しての人生だったのだ。
また前から傍陽も知らないでいた折
たまたま8月2日、理事さん達に連
れられて車で傍陽の山間を右へ左へ
と実相院の上まで行き、途中あちこ
ちにノウゼンカズラが美しく緑の畑
にまた家の周りに目にあざやかに咲
き乱れていた。これが平和な風景で
は……と。

三井芳郎元会長さんのお家まで、
たまたまお留守で庭を見ると、トマ
トがたわわに……。中島会長さんと皆で
こつそり？つままで食べた味のおい
しかったこと（これはナイショで
す）。

さて傍陽の山間で感じたことは、
今のように舗装道路もなく曲がりく
ねった道を鎧兜で身支度し走り回れ

たものと感心しきり。

又砥石城、米山城が上田に近い山
間に身をかくすにはもってこいの起
伏を持った山里、けれど戦場へ出向
くにはあまりに深い森と起伏の激し
い道を敵陣に向うには体力の消耗が
いかばかりかと思いやられる。

沼田城も一度行ってみたい所。ま
た菅平から流れ下る神川が歴史の血
生臭い一頁だったと言う事も。

こんな過去が真田町に在ったこと
は物語の世界！

何々ちゃんに

逢えました

曲尾出身 丸山 廣義



昨年のダボスに「何々ちゃんに逢
えるかな」と題して、傍陽二七会の
ことを記載した一文を掲載して頂き
ました。今年の五月に別所温泉に
てその二七会を二年ぶりに開催する
ことが出来ました。
その宴会場で地元にいる友(中組

の三井袈裟美君よりこんなことを
お願いされたのです。毎年ダボスを
楽しみに愛読しているのですが、
我々古希をとうに過ぎ足腰が痛く、
また他にもいろんな持病での病院

この病院と通院したりしているけれ
ど、なんとか元気を出して農業に他
の作業に、また地域社会のため頑張
っているの、本日出席した二十六
名の笑顔の写真をダボスに載せても
らい、まだまだ元気で己のため家族
のために頑張っている姿を、東京方
面「真田町の皆さんに見てもらいた
いのです。是非お願い致します。

ところで話は異なりますが、今日
は九月十四日、中秋の名月、十五夜、
今日は生憎の天候で美しい月が見ら
れませんが、幼い頃の田舎でのこと
を思い出しました。

家の庭先に白いダンゴ、ススキ、
果物を盛りお供えをした。満月を眺
めながらの一家団らん、お月さんの
中でモチつきをしているうさぎさん
に願いごとをした。こんな光景は、
今では田舎に行ってもまったくとい
っていいほど見られないそうだ。月
見は子供心に楽しさと夢があり、そ
の日が来るのを待ち遠しく思ったも
のだ。あれから六十年余の年月が過
ぎた。現代の親子は会話もなくギク
シャクした関係、様々な事件が新聞、
テレビをにぎわしている。

皆さん、どうです。あんなよき時
代に戻って、一家でうさぎさんに願

いごとをしてみませんか。
 (写真は21頁最上段にあります)

貯める時代から

殖やす時代？

横尾出身 花岡 節雄



東京真田町の会の皆様お元気でお過ごしのことと存じます。私も十二月で古希を迎え元気でやっています。先日真田町の会の理事をされている鈴木邦子さんから一筆お願いしたいとの電話があり、固辞したのですが考えて見れば、会長をされている中島正江(旧姓関谷)さんは小中学校時代の同級生であり、皆様頑張っているらしやるので筆を執ることにしました。

私社会人として三十八年間証券会社に勤務し、退職後は派遣社員として六年間信託銀行で投資信託の販売をお手伝いして来ました。

最近のTV・新聞のトップ記事は「日経平均株価一時バブル後の最安

値」"日経平均二十六年ぶりの安値

為替相場は欧州で米ドル相場が九十円台、ユーロは一二〇円台と円高が急ピッチで進んでいます。日本の輸出企業は今期の為替レートを一〇五円前後で設定していますので、このままですと企業業績は大幅に悪化し、企業倒産と失業者が大幅に増えると思います。例えばトヨタ自動車では一円円高になれば年間四百億円の収益がマイナスになると云われています。

産油国のオイルマネーは原油の値上がりで大儲けした資金は今迄では殆んどアメリカの株式・米国債で運用していましたが、最近のドル安で目減りする為、今後は自国のインフラに投資すると言われていきます。そうなれば益々ドル安傾向にならないかと心配します。

世界的に銀行・証券・保険の大型倒産はアメリカのサブプライム(米国の低所得者向け住宅融資)の焦げ付きから発生しています。

一九二九年のニューヨーク株式市場の大暴落から世界大恐慌に突入しました。あれから八十年まさに麻生総理大臣の言葉を借りれば、「世界は百年来の暴風圏に突入」だと思います。

東京株式市場はバブルの最盛期一九八九年十二月は日経平均株価は三八九一五円まで上昇、最近安値は七〇〇〇円台まで、八割強の値下がり

です。

ここ数年来、個人投資家が銀行預金から、又最近郵便局が投資信託の販売に力を入れ、投信の純資産は急増しましたが、今回の円高・株安で大きな損害を出してしまいました。

投資信託は、国内株式・世界の株式・世界の債券・不動産投信REIT等)等を組み入れた二〇〇〇種類位の商品があります。毎月分配を楽しむに年金代わりの目的で買われた方が多くいます。個人投資家の損害以外でも、企業年金・国民年金の運用も株式・不動産を組み入れている為、大きな評価損を出していると思えます。又サラリーマンの財形貯蓄401Kも同様です。

今回の世界的大不況で主要国は金利を引き下げ低金利時代に突入しました。当然の事ながら預貯金金利も下がります。政府は経済対策として証券税制の優遇措置(利子・配当所得の10%課税)の三年間延長を決めました。

昔から経済は生き物と言われています。サブプライム問題が解決すれば景気は回復し、株式相場も回復すると思います。これだけ株式相場が下がればもういいだろうと考える方が多いと思われれます。昔から証券界では「人の行く裏に道あり花の山」「もうは未だなり、未だはもうなり」と言った格言があります。どうぞ

める時代から殖やす時代に対応して
 いただきたいと思います。

私のゴルフ人生

(ホールインワン記念)

横尾出身 堀内 政



先日の東京真田町の会の秋季ゴルフコンペ(群馬県富岡CC)に参加し、パーティの席上で寄稿することになりました。

仕事からみのゴルフをして満20年になりますが、本格的に始めてから約13〜4年が経ち、数えたら1815回のラウンドとなりました。(因みに初回からのスコアカードは年別に全部ファイルに保管してあります。)

私がゴルフを始めたきっかけは、20年位前に入会してましたライオンズクラブのゴルフコンペにいきなり参加することになり、ルールやマナー、さらにクラブの握り方も解らない状態でプレイをして、恥をか

くと同時に同伴者に迷惑を掛け、反省したことでした。当時はゴルフコンペが盛んで、嫌々ながらも参加せざるを得ない状況でした。

しかし下手のままではいつも面白くなく、なんとか家内(…)を好きになるように笑心心がけまして、5年後になってようやくゴルフが大好きになり、練習やテレビを見ながら色々勉強して、オフィシャルハンディ5まで(2001年)到達しました。

最近ではゴルフを介しての人の係わりが非常に多くなってきており、人脈も広がり、私にとってゴルフは趣味と実益を兼ねた将に一石二鳥の存在で、元氣滲刺と幸せを感じながら、ゴルフを楽しんでおります。

最近ではゴルフが再びブームになって、以前とは違ってカジュアルなスポーツとして若い人達も伸び伸びとプレイを楽しんでいるように思われます。

今年の8月27日に茨城のアスレチックGCに於いて、178ヤードのホールインワンを達成することが出来ました。バンカー越えのゆるい下り、約5m手前にオンして、パターで入れる感じでカップインしました。同伴競技者も私以上に感激した様子で「入り方も色々あるけれど、絵に描いたようなホールインワンである。」と絶賛を浴びた次第です。プレイ終了後はお決まりのコース

(?)で銀座に繰り出し、ホールインワン保険の百万円は全部使い切りました。(笑)

自慢話はこれぐらいにして、東京真田町の会も21年目を迎えたこの事ですが、ふるさとの上田市との合併もあり、時代の大きな変革を感じます。合併までは当社も会報「日本ダボス」の賛助をして参りましたが、その後は協力出来ず、この場を借りてお詫び申し上げます。

当社、株式会社 真田不動産も同じく設立21周年を迎えましたが、ご存知の通りの人類史上、未曾有の世界大恐慌に、不動産業も直撃を受けていますが、こう言う時、この状況こそ知力・洞察力・直観力・決断力、そして資金力を兼ね備えた柔軟性を持ち、欲張らずに対応することが賢明だと思えます。

最後に東京真田町の会およびゴルフ同好会が世代交代しながらも益々発展されることを祈念しつつ筆を置きます。

「くだもの」

曲尾出身 清水 民子

古里に帰る楽しみのひとつに果物があります。杏・桃・葡萄・柿・林檎と、四季それぞれが楽しみです。たとえば苺。東京でも色も大きさも

立派なのに、苺狩りに行って摘み取ったのを食べると甘みといい、風味といい、まるで違うものに感じられます。

人に聞くと、市場に出すものは少し早めに摘み取って送られるので、いくら良質のものでも味が落ちるということです。

果物というのはその本当の味は、木でよく熟したものを食べなければわからない。頃合いが早過ぎても遅くても味が変わってしまう。だから地元で十分に熟したものが一番だと云うことです。



私はまだ試していないのですが、枝の先に実った桃、それを十分に熟させ芳香が漂うころ、木にぶら下がったままの桃を指先で皮を剥がし、

したたる果汁をものともせず上を向いてかぶりつく。それが最高の食べ方だと聞いたことがあります。是非一度やってみたいと思っております。

それにしても果実天国となったのはそんなに古いことでは無いようです。私たちの子供のころは今のような美味な果実は無かったと思います。

たゆまぬ努力、長い年月に携わってきた方々の労苦に感謝してその恵みに喜んで与っています。

子供の頃の信州は自然の恵みも多く、山路で見つけた野苺は口に入れ舌の先でつぶすと甘味が広がります。桑の実のは口の周りが紫色に染まり食べたことがすぐに判ってしまい、アケビの淡い紫の実は、ほのかな甘みが幸せな気分させてくれました。夏の終わりの朝、青い林檎の硬い実をそのまま丸かじりすると、甘味は少なく強い酸味と共にかすかな渋みが口の中に残り、思わず口をすぼめてしまいます。見上げる空は真つ青に澄み、秋の訪れを如実に知らせてくれます。今日は昨日の続きと思いつながら、なぜか新しい出逢いがあるような気持ちになり、学校へと急いだものでした。

「ふるさと」は私にとってとても響きの良い言葉です。その「ふるさと」で幼いころより魅力的な「くだもの」に多く出会えたのは私の宝でも有ります。

ふるさと便り

顧問 三井 芳郎
(真田町大庭在住)

一、ふるさとで森本幹生画伯展開催

十一月一日から九日まで、真田公民間にて、森本幹生画伯展覧会が開催されました。森本さんは真田町入軽井沢でお生まれになり、傍陽小学校に三年生まで居られ、四年生の時に上京されました。その後、武蔵野美術大学を卒業され、画家の道に進まれました。

真田町に幾つもの洋画の大作を寄贈されて居られます。今回、初めてふるさと展がありました。応援して下さった方々は、傍陽小学校の同



級生一同であります。実行委員会代表は三井英明さん、推薦人は旧真田町町長の若林康朗さん、箱山好猷さんでした。

会場には数百人の人々が訪れ、その大作「花」、「柳」、「十三仏絵画」等を驚嘆して鑑賞して居られました。ふるさとを愛する真田町出身の森本幹生画伯の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

二、三島神社に文化財が

傍陽に三島平という区があります。

裏山を越えれば菅平に通じる山奥です。この三島平に「三島神社」という小さな神社があります。かなり古い神社で、昔から村の人達に大事にされてきました。昔、養蚕の盛んな頃は熱心な信者が集まり、かなり栄えていたと聞いています。

この神社で大発見がありました。神社を守る堀内信孝さん、堀内薫さんは平成十八年に、三島神社にずっと隠されていた「御正体(みしようたい)」を発見したのでした。

それは堀内さん達が、永年守ってきた奉加帳の箱に「十一面観音を奉つている」という記述を見つけてから、協力して調べた成果でした。

これはかなり古いもので大切な物だと堀内さんは言っていました。又、明治時代の廃仏毀釈運動から守る為に当時の村人が隠したのではないかと考えられ、御正体の由来の謎は尽きないとお二人は云っています。上田市にお願ひして色々と調査しています。この地の歴史、物語を完成させて後世の人に伝えたいと云っています。

御正体は懸仏と呼ばれ、御神体(鐘)と仏様が一つになったもの(直径十センチ位)です。平安時代後期(九百年位前)の作と思われる。堀内さんや上田市では、この地の歴史、物語を完成させ、後世に伝えたいと云っています。

五月に上田市指定文化財の答申が

ありました。

日だまりの猫

副会長 柴田

小夜子
(菅平出身)



我が家のお向かいに、もう13〜4年住んでいる猫ちゃんの話です。名前はナナ、もらわれてきた日がある夏の7月7日であったのでナナと名付けられたとか？

真白で目のくるくるとした、とてもかわい子猫でした。臆病で寂しがりやのナナ、あそびが大好きで網戸に飛びついてはつめがひっかかっておりられなくなつて「にやあ、にやあ」と鳴いていたり、思いつ切り木に登って降りられなくなつてしまふ半日位鳴いていた。

半年ほど経って今度はシーズ犬のアキちゃんがやってきた。ナナの飼い主は孫の美絵さん、アキちゃんは美絵さんのお母さんが飼い主というわけだが、気の良いナナはアキちゃんの元気さにはかなわない。いつもアキちゃんに吠えたりはされ、しかた

なく外に出てうろうろしていた。家にもどつても、いる場所が無い。しかたがないので二階のベランダがナナの住み家となつている。アキちゃんは日当たりの良いダイニングに陣取り、外をながめながら、散歩中のお仲間を吠え立てている、とても気の強い犬である。小さい身体なのに自分の何倍もある先輩を脅かしているのだ。ナナもとても叶わない。

そんなナナも気の強い時もある。やはり男の子、年に2〜3回はどこかで喧嘩をしては大怪我をしてくるのです。そんな二人(二匹?)を毎日お世話をしてくれるのが祖母の一枝さん、經理の仕事しながら、買物、散歩と忙しい毎日である。その散歩も4〜5年前から変化が起きたのです。アキちゃんが足を痛めてしまつて歩くことが困難になつたため、しかたなくアキちゃんをだっこしての散歩になつたのが、気の良いナナは心配で、その後を毎日ついて歩くことになつたのだが、車の多い通りまで出ると、それ以上は行かない。いつも決まつた駐車場で待つている。一枝さんとアキちゃんは買物をしながら我家にもどつてしまつた。そんな時でも、じつと待つている、何時間も。そんなナナを近所の人が見かけると「お母さんはお家に帰つたから、ナナもお帰りのさい」と声をかけてくれる。仕方なく「にやーあん」と鳴きながらとぼとぼと家に帰るナ

ナ、そんな日々が4〜5年続いてい
ましたが、今年の春先、又々ナナは
今度は頭をかじられ大怪我、その時
に左目の網膜剥離でとうとう失明し
てしまいました。そんなナナをアキ
ちゃんも心配そうに見ていましたが、
ナナの怪我が良くなって落着いた頃
に静かに天国に行ってしまいました。
仲が良かったのか？悪かったのか？
微妙な二人(二匹?)の関係です
が、今はナナも一人淋しそうな毎日、
相変わらず通りに大の字になって寝
ていたり：前から道路で大の字にな
って寝てしまう変な猫なのです。
時々車も止めてしまう道路のまん
中に寝てしまうので運転する人もこ
まっています。クラクションを鳴ら
すのですが、そんな事では起きては
くれない、しかたなく降りてきて「猫
ちゃん、起きてくれよ：」とたのん
でいる。そんな事はしよっちゅうな
のです。子供好きで小さな子が通る
と甘えた声でにやあんと言っは足
先からみついている。この頃は日
だまりにまねき猫の様にすわって
うつら、うつら、と寝ているナナ、
いつまでも元気でいてね。

「斎藤式指圧療法」

真田出身 斎藤 勇一

私は昭和四十五年に世田谷区松原
に指圧治療院を開業。常々いかにし
たら病める人々のお役に立つことが
出来るか考えています。
多い症例は自律神経失調症、慢性
疲労症候群、各部位の神経痛など
です。

坐骨神経痛、四十肩、五十肩等は
病気の原因である組織の硬着を取り
除くことにより、痛みを除去し症状
を完治させることが出来ます。

現在はストレスの溜りやすい社会
環境で、自律神経失調症になる方が
多いです。



これは後頭部を治療することによ
り、間脳の視床下部が刺激され、外
部環境が色々変化しても人体の内部
環境が掻き乱されることがないよう
に常に安定した状態を維持すること
が出来る身体に変化します。

八歳から百二歳まで、あらゆる分
野の方々が治療に見えます。

近くに東大があり先生方が見えま
すが、皆さん体が硬く、私学の先生
は柔らかいです。これは面白い現象
です。

又、企業家は高齢な方でも頑丈な
体格をお持ちなので、その方々に負
けない気力、体力を必要としますの
で、平素から自分の健康に気をつけ
ています。

先日、羽田先生が治療に見え、奥
様が、代議士の夫人たちとげぬき
地蔵で全国各地の名産品を配った話
をされましたが、「おやき」が一番人
気があったとの事です。

最近、西洋医学の先生方も予防医
学の必要性を感じ、関心を持たれる
様になりました。

病気になってから医師にかかるの
ではなく、病気にかかりにくい体作
りが必要と思います。
最後に郷里を詠んだ拙い三句を。

○遠足や 御屋敷といふ 真田邸

○地梨食む 錠前いらす 真田郷

○星あまた 三月寒し 菅平

太郎山

大庭在住 内海 宏光

我があばら家の南西方向遥かに、
太郎山標高一、三〇〇・七m、正式
には「東太郎山」と言うが聳えて
いる。山頂に向かって右側の尾根は、
石堂の峰々を経て地蔵峠へ、左側は

曲尾太郎山を経て傍陽川に落ち込ん
でいる。私は、毎朝あばら家の軒先
から手を合わせ、一日の家内安全、
夫婦円満等をお祈りしている。いつ
眺めても姿と言ひ、形の良い山であ
る。

私がこの地に生を受け、育った全
てを見守っていてくれた太郎山につ
いて幾つかを語りたい。



私が幼かった頃、いや、その昔か
ら太郎山は我が部落においては「生
活の全てを支えてくれる山」であっ
た。山腹には桑畑、野菜畑等が一面
に広がり、大麦、小麦、そば等の穀
物、大根、株、ねぎ、ジャガイモ、
サツマイモ、キャベツ、白菜等の野
菜が作られ、土手には「どてかぼち
や」が一面に葉を広げていた。

これらの畑に作物を作る際の肥料
等、又収穫した穀物等の運搬は、ほ
とんど「しよいこ(背負子)又は背負
い籠」であった。すなはち人力であ
った。村の大人・子供全てが、それ
を使用していた。

(二十三頁四段一行目に続く)

第二十一回総会・懇親会のご報告

副会長・事務局長山口元彦

(横沢 出身)



うと挨拶しました。

一 五月二十五日に、アルカディア市ヶ谷五階「穂高」の間で、第二十一回総会・懇親会が開かれ、あいにくの雨の中を、会員五十九名、上田から母袋市長、丸山議長、清水・三井両議員、小市真田地域自治センター長各位を含む七名、東京上田会から森会長と宮島専務理事の皆様が出席されました。

二 例年のことですが、開会に先立ち「信濃の国」を斉唱すると、気持が引き締まると同時にぐっとうち解けた雰囲気になるのは不思議です。

中島正江会長が、雨の中を大勢の会員や上田市の幹部の皆さま、それに東京上田会の役員さんが出席して下さったことに御礼を述べ、会員の中には体調のことなどから出席できない方がいらっしやるけれど、みんなのふるさとを思う心は一つであり、協力して市を盛り上げていきましょ

母袋創一上田市長は、ふるさとは新緑が映える時期であること、お城の人気投票で上田城が全国第一位になったことや、ホテルの里作りでも天下一になったことなどを紹介され、古いものの良さを活かしながら、新しい町作りでも天下一を目指していきたいとの抱負を話されました。例として、「子育てするなら上田市」という目標のもとに、小児救急センターの開設や菅平で小中一貫教育を始めたことなどを紹介されました。そして、その財政を支えるために、真田町の会の皆様に、「ふるさと納税」に協力していただきたいとのお願いがありました。

三 会務報告・決算報告・事業計画・予算案のほか、役員改選についても原案通りに承認されました。

四 懇親会では、小林孝雄顧問が歓迎の挨拶に立ち、当会も高齢化が進んでいるので若手を誘わなければならないことを指摘し、また、上田市には日本一として誇れるものが二つあり、一つは人気投票で上田城が姫路城、大阪城、熊本城を押さえて日

東京真田町の会 懇親会



東京真田町の会 総会 懇親会



本一になったことで、天守閣がないのに選ばれたのは、城ができるまでの経緯や二度にわたり徳川の大军を撃退した歴史物語に関心が寄せられているからと思われること、二つ目は公共用水域の水質や下水道の普及率について行われた環境保全ランキング調査で一位にランクされたことを紹介し、場を盛り上げました。

来賓紹介の後、丸山正明上田市議会議長から、ふるさとへの深い思いをもちながら生活している会員の皆様に敬意を表し、合併して新市になったがそれぞれのふるさとを大事にしているので、会員諸氏も新しい上田というところに気持を寄せていただきたいというお話と、会のますますの発展を祈るとの祝辞をいただきました。また、東京上田会の森浩一會長から、自分は塩田の出身だが、根子岳や四阿山に登ったことがあるし、真田駅でキャベツがたくさん貨車に積まれている光景が今でも目に残っており、真田は素晴らしいところだと思っていること、真田会とも連絡をとりながら活性化を図っていききたいとの挨拶をいただきました。

五 中村恵美会員の、皆様のますますのご健勝を祈って、との音頭で乾杯し、食事と歓談に入りました。他のテーブルの人たちの所にも回ったりしながら懇親を深めるうちに、田中英徳会員の「千曲川」を先頭に隠





【写真は傍陽二七会の皆さんです】

し芸の披露が始まり、次々と飛び入りがあったり会長の踊りも加わって盛り上がりました。
 また、上田市からお土産にいただいた真田町の特産品を、市長様をはじめ来賓の方々とのじゃんけんを取り合ったり、全員で恒例の「真田郷」輪踊り（これは何回やっても覚えられないのは私だけではないようです）や「ふるさと」の斉唱もして、楽しく過ごしました。

六 お開きの頃には雨も上がり、「来年もね」との声を掛け合いながら、三々五々家路につきました。



2日目 「ホテル雄山」(9:00)
 〳 上山田城山史跡公園「荒砥城跡」
 〳 善光寺〳おぎのや長野店(昼食)
 〳 川中島合戦場〳上信越道(長野)



☆ 親睦旅行
 各部の活動報告
 期日：19年11月16日～17日
 参加者：男9・女5・計14人
 行程：1日目 大宮駅西口大宮ソニックビルパレスホテル1階入口前(9:00)〳関越道(東松山)〳上信越道(碓井軽井沢)〳国道18号線〳東御市草笛(昼食)〳真田町・真田氏歴史館・お屋敷跡公園〳信綱寺〳実相院〳上山田温泉着(16:30)「ホテル雄山」宿泊

(東部湯の丸)〜国道18号線〜(小諸)〜関越道經由圏央道(川島)〜大宮駅西口到着(17:25)

担当理事 金子誠



マイクロボスの中では、柳沢(實)さんのチョコ付きの貴重な資料：信綱寺や金繩山実相院の由来など：が配られ、皆何十年ぶりの勉強をすることに・・・いつも本当にありがとうございます。

昼食の「草笛」のおそばは絶品でした。「草笛」出発時はひどい雨でやっぱり：でもお屋敷に着いてみると雨はからりと上がってラッキー！：生まれ在所の金繩に清水寺の舞台を偲ばせる大舞台を持つ観音堂を発見してびっくり。晩秋の静かな寺院の境内は値千金でした。

2008.4.8 富岡CCにて



恒例の春季親睦ゴルフ大会は4月8日、富岡CCで開催され、参加者は10名(女性一名)でした。プライベートハンディ方式でプレイした結果、優勝：山田優佳さん、準優勝：横沢武典氏の親子(子親?)入賞となり、三位・ベスグロ賞は実力者の堀内 福氏でした。

☆ スポーツ

◎ ゴルフ同好会

夜のうたげはカラオケで盛り上がり、部屋に引き上げての二次会もにぎやかに晩秋の信州の湯の宿は静かに更けていきました。翌日は善光寺・川中島合戦場・リソゴ、漬物等のみやげ物店と忙しく晩秋の信州を駆け巡り、家族的で楽しい旅は無事に終了しました。(武捨記)

2008.10.3 富岡CCにて



◎ マレットゴルフ

また秋季親睦ゴルフ大会は10月3日、好天に恵まれた富岡CCで開催。参加者は10名で、優勝：武田守央(ネット61)、準優勝：塩澤和政(同63)、3位：佐藤仲男(同66)、ベスグロ：堀内 福(グロス79)の各氏で皆さん好スコアを記録されました。担当理事 堀内 福、荻原啓治

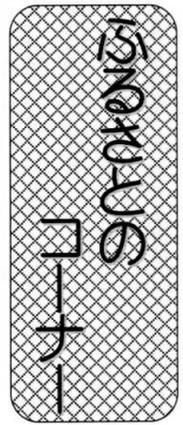
春の大会は5月18日に男性5人、女性3人の参加を得て新座のマレットゴルフ場で開催、優勝は滝沢けさ子さんご主人、準優勝持田みさ子さん、三位は大久保正寿さんでした。また秋の大会は10月19日、9人(男性5、女性4)の参加を得ていつもの新座のマレットゴルフ場で開催。優勝：堀内寿美、準優勝：柴田小夜子、三位：山口元彦の各氏でした。

担当理事 荻原啓治

2008.10.19 秋季MG大会

2008.5.18 春季MG大会





1 同封の「ふるさと寄付金制度」のパンフレットについて

地方税法が改正され、いわゆる「ふるさと寄付金制度」(ふるさと納税制度)ができました。ふるさとの市町村に寄附をすると、現住地の自治体の個人住民税などの控除が受けられる制度です。これを利用すれば、住民税の一部をふるさとに納めるのと同じような効果があるそうです。

この度、上田市から、当会会員の皆様にこの制度を説明したパンフレットをお届けするよう依頼されましたので、同封させていただきました。ご覧のうえご検討賜りたく、また、ご不明の点は上田市役所政策企画課にお問い合わせ下さるようお願い申し上げます。

2 真田町で

『森本幹生さんの個展』開催

当会会員・元理事の森本幹生画伯の個展が、平成20年11月1日から9日まで、真田公民館で開催されました。森本さんの傍陽小学校時代の同級生が実行委員会を作り、旧真田町長若林康朗さんと同箱山好猷さんが推薦人として参画されました。信

濃毎日新聞などでも報道され、たいそうな盛況だったそうです。

森本さんは入軽井沢のご出身で、武蔵野美術大学を卒業、国際美術大賞展、中国大使館賞、都知事賞その他多数を受賞され、東京・川崎ほかで多くの個展を開くなど幅広い活動をしてくれました。日本選抜美術家協会常任理事審査員、国画院会員師範などを歴任され、現在、国画水墨院常任理事を務めておられます。旧真田町にも何点もの作品を寄贈され庁舎や文化会館に飾られています。絵画にはまったく疎い筆者ですが、以前鑑賞させていただいた際には雄大かつ繊細な風景画が印象に残っており、また、今回の個展の案内状に印刷されている文殊菩薩像は、表情に深い叡智が秘められていることが感じられ、ジット見つめてみると、自分の無知や雑念が見透かされるような気分になり、森本さんの創作活動の奥深さに感心しました。

我が真田町が生んだ出色の画家として、皆様にもご報告させていただくとともに、森本さんが今後も縦横にご活躍されることを期待してペンをとりました。(この項は三井顧問の寄稿内容と一部重複しています)

3 小惑星名に

“信州上田”が登場

世界にも知られる小惑星ハンター

の渡辺和郎氏(北海道在住)が発見した小惑星に『Shinshuueda』という名称がつけられ、9月11日に上田地域広域連合にその命名証が贈呈されました。

これは、上田創造館が「子ども未来21事業」の一環として行なったもので、アメリカのスミソニアン天文台に本拠をおく小惑星センターで8月19日に正式に命名されました。

「13094(Shinshuueda)」は、今は太陽の向こう側にあり、春ごろには見ることが可能な位置にきますが、直径10km以下(推定)・一四、六等星と暗い為、市販の望遠鏡で見るとは難しいようです。

ふるさと上田にちなんだ名前のついた星の存在が、子どもたちの宇宙や天文学への関心につながればと思います。(広報うえだより転載)

4 「ホタルマップ二〇〇八」

について(5頁の写真参照)

上田市上下水道局が上田地域全域のホタルマップを作成しています。A1版(A4版8枚の大きさ)の上田地域の地形図(5万分の1)に6月4日から7月14日にわたる88箇所での発生数情報が記録されたりフレットで、大変貴重な資料になっています。連絡先・メルアドは

Tel 0268-23-5128

hotaru_map@city.ueda.nagano.jp

(十八頁四段目最終行から続く)
坂の農道(現在の車が往来できる農道とは異なる)のところどころに、しよいこ等を背負ったまま休むことができる休憩場があり、そこまでは荷物が重くても我慢をして背負い上げ、または背負い下ろした。

そこは、一種の社交場でもあり、村の人と会うと、お互いの家族の事・農作物の作付けや出来具合・天気の話等の短い世間話が行なわれた。休憩場所の使用ルールは、背負い上げて来た人に席を譲る事であった。

記憶に残る畑の地名は「しもんた、おんた、ひかげばやし、うしつくび」などであった。現在、畑として残っているのは、「しもんた」のみで、祖先伝来の山畑は昭和を最後に、山林に戻ってしまった。

燃料にしても、大部分は太郎山の山麓にて確保していた。山畑の奥の中腹以上が燃料の山であり、毎日の飯炊きを使用する「ぼや」「わるつき」また、冬の炬燵で使う消し炭等である。これらはすべて、しよいこで家まで背負い下ろしていた。

畑仕事、山仕事にしても雨降りには出られず、太郎山の向こう側、上田からの汽車の汽笛、または汽車が吐く蒸気の音が聞こえると、「明日は雨だから」と、どこの家でも、その日の農作業を急がされた。

山菜取りも太郎山の山麓で行われ

は女子が大活躍、男子はマキを入れ
たり、火の当番でした。楽しい夕食
の後はキャンプファイヤー、歌つた
り、肩を組んで踊ったり、とても楽
しい一時でした。そして、就寝は男
女別々にテントの中で、あれ、先生
の寝る所がありません。と見ると先
生はやおら寝袋を取り出して首まで
スッポリ入り、ハイ、お休み。先生
には大変申しわけなかつたなあと、
今、しみじみ思い出されます。なに
も起こらず無事朝を迎えられ、又皆
で飯盒炊飯、吹きこぼれる御飯の
おいがたまりません。

朝食後は根子岳に登ろうという事
になり九人で山登りを始めました。

2〜3時間登ると皆疲れてしまい、
草原にゴロリと横になりました。何
となく空を見上げてみると、青い空
に大きな雲が、モクモクと湧き上
るのが見えました。十分、二十分、
雲はいろいろな形をして私を楽しま
せてくれました。何か、体の中から
フツフツと言葉にはならない様な物
が湧き上がって来るのが感じられま
した。あゝこれが青春なんだ、青春
の始まりなんだろうなと思いました。
そして、この時以来、私の心には、
あの時見た菅平高原の青い空、大き
な雲、大きな山の姿がシツカリと刻
み込まれました。

私の好きな信州、今も里帰りをす
る時には必ず菅平口を少し下がった
川沿いの駐車場に車を止めて、菅平

高原の写真を撮ります。春、夏、秋
：冬は行きませんが、色とりどりの
山も川も、そして空も五十四年前の
ままです。美しい山、清らかな流れ、
躍る雲、中学三年のキャンプで見た
ままの変らないふるさとがそこにあ
ります。

ありがとうございます、ありがとう
仲間達。お元気で。

同級生との奇遇

真田出身 荻原 學



我間もなく故郷を離れて六十年が
経過しますが、四季折々に故郷の
様々な風景や、級友の皆さんの面影
が蘇ります。

若かりし頃、小学校の同級生O・
Hさんとの全く予期せぬ幸運としか
言えない出会いは忘れられません。

O・Hさんは西組だったので会話
らしい会話は記憶に有りませんでした
が、印象に残る人で、存在感があ
り頭がよく、何時も穏やかでニコニ

コ顔が印象だったと思います。
私は上京した短い一時期でしたが、
医院の自家用ドライバーをしました。
その頃、アメリカの大リーグ野球
ロビンソンチームが、今の東京ド
ームにその頃は後樂園でしたが一試
合に来日しました。

「試合を見に連れて行って」との
依頼で、小学生を連れて出掛けまし
たがすでに切符は売り切れで、途方
にくれどうしようか？と混雑する人
ごみの中をうろろろしてました。そ
の時奇跡が起こりました。

前方から若いガッチリした警官が
来るのが目に入り、近くに来た時
O・Hさんとはつきり分かりました。

O・Hさんも驚いたと思いますが、
私を見て「何してるの？」、事情を話
すと「そうか、じゃ黙って後につ
いて来いよ」と言われ、後について
入り口に向いました。入口でO・H
さんは颯爽と係員に軽く手をあげゲ
ートを抜け、私達もピツタリと後に
ついてスナナリ球場に入る事ができ
ました。

O・Hさんは「じゃあ」と言つて、
凛々しい制服姿で立ち去りました。
ほんの短い間だったのでお礼を言え
たか思い出せません。改めて本当に
有難うございました、感謝々々です。
あの時、早々に諦めて帰っていたら
あの奇跡はなかったでしょう。三十
年前の思い出ですが、今でもあの雑
踏の中で、よくばったり会えたもの

と不思議でなりません。
O・Hさんのご健勝であらん事をい
のるのみです。

親睦旅行

上山田温泉ホテル

「雄山」へ

下横道出身 桜井 和子



十一月十六日 ホテル「雄山」よ
りの送迎バスで大宮より九時出発。
私は都合で二日前から丸子に来てい
たので東御市の草笛で皆さんを待っ
て十二時の昼食から一緒に過ごしてい
ただきました。そこから同級生の平
田金子さんと楽しく話しながら、ホ
テルの車で真田氏歴史館、真田氏発
祥の郷、時代を駆け抜けたゆかりの
品々が展示してあり、真田氏三代の
略歴もわかり、もう少しゆっくり見
ていたかったのですが、次の信綱寺
へ、以前何回か来た事があったが、
柳沢 實様にいただいた資料で、く
わしく歴史がわかりました。次は金

縄山実相院へ、小学生の時二・三回は来たように覚えていました。千数百年に及ぶ古い歴史のある立派なお寺で、ここでも柳沢様の資料でくわしく知りました。

萩、大庭、中組を通って地蔵峠を下って松代、屋代、上山田ホテル雄山に無事着き、温泉に入り宴会もにぎやかに楽しく過ごしました。

十七日は九時に出発、千曲市城山史跡公園へ、坂を大分上がって荒砥城跡へ、約四百年前に築かれ戦国時代で次々城主も変り最後廃城になりました。見張台の櫓に登って眺めがよいので遠く迄見渡せてきれいな紅葉も素晴らしくずっと眺めていたい気分でした。一番上の本郭の館には円座が一枚まん中に置いてあり今にもおやかた様が現れてきそうでした。次善光寺へ、丁度お上人さまが大きな赤い傘をしたがえて皆しゃがんで並んで待っているところへお数珠で頭をなでて下さって初めての経験でしたので感激しました。善光寺は来々年御開帳になり、大変なにぎわいになるでしょう。川中島合戦場「おぎのや」で釜めしの昼食、途中りんご、漬物、農産物のみやげの店に寄り、荷物も次々ふえてしまいました。無事に大宮駅へ五時半に着き、今回は盛り沢山で良い旅でした。お互い元気でいたら是非又参加しましょうと約束してお別れしました。幹事の金子さん柴田さんには特にお

世話になりありがとうございました。

我が青春の思い出

『故郷で過ごした』

大学一年の夏休み

傍陽出身 嶽栖邸 昶人

五十余年前の七月の末に、私は大学に進学して初めての夏休みをふるさとで過ごす為、四ヶ月ぶりに帰省しました。一年ほど前から大切にしていた幼稚な男女交際を、十九歳にふさわしいステージまで進める夢をあれこれと思い描きながら……

しかしこの夢は文字通り夢に終り、青春の一頁を飾るはずだった夏休みは、一転して心にふるきずを残す「失意の夏休み」になってしまいました。

夏休みの過ごし方を話し合うつもりでデートに、彼女は何人かの級友と連れ立って現れたのです。大学一年生と言っても田舎者で幼稚だった私は、この不可解な彼女の行動にびっくりしてとまどい、一年ぶりの再会にもかかわらず二言、三言、ことばをを交わしただけで肝心のことを話し合うきっかけも作れず、デート場所の図書館でうろろうろし、いつの間にか彼女は帰宅してしまったのです。

その後も幼く未熟だった私は、彼

女の気持ちをはかりかねて悶々とすただけで、デートに誘う踏ん切りもつかずに日を送り、期待に胸躍らせて帰省した信州での大学一年の夏休みは、デートらしいデートもないまままで終わりを迎えてしまったのです。それでも朝夕や緑陰が涼しい田舎の日々、友人と行った富士登山、久しぶりの旧友との再会、上田図書館での勉強、母校運動部の合宿のコーチ、農作業の手伝いなど、忙しいスケジュールに追われて過ごした初めての帰省しての夏休みは、一面では爽やかで、野辺の畑の休憩時に風に乗って流れてきた「小島通いの郵便船」の軽快なメロディーは、今でも懐かしく思い出されます。

私は新学期に備えて上京する上田駅で、胸躍らせて帰って来た夏休みのあまりにも惨めだった落胆の日々をはずかに辿り、「俺は凜とした男だったはずだ」と潔くこの交際を諦める決意をしたのです。

一年前のたった一度だけのデートの想い出の残る上田城跡公園と、澄んだ眸の彼女に、心の中で別れを告げ、涙を拭いて再スタートの決意を固め、秋風の吹き始めた故郷を後に残暑のきびしい東京に向ったのです……。

悲喜こもごもの人生の大半が過ぎた現在では、誰もが一度は経験する「失恋のひとこま」だったと懐かしく思い出せるのですが、その時は本

当につらく魂が凍えるような寂しさをかみしめた上田駅でした。

それから4年後の、夏休みを終えて帰京する汽車で、この上田駅で偶然に乗合わせて出逢った女性が今、私の子供たちの母になっているのも、思えば不思議な巡り合せで一期一会の人生が実感されます。

帰京した傷心の私に残ったのは、修学旅行先の京都の宿から届いた四ヶ月前の彼女のラブレターと、交際のいとぐちとなった数通の純真さと才気に満ちた手紙だけでした。

それから二ヶ月ほど経って十数人の級友と懇親旅行で訪れた山の湖で、長い受験生活から開放されてはしゃぐ同級生を宿に残し、独り散策に出て晩秋の湖畔の土産物店で手に入れた数葉の絵葉書には、失恋の詩が記されており、印象的だった二つの詩は今でも記憶に鮮明です。

○ そよげる葦よ ころろあらば

つれなき君の 此処にしも

来ませし時に 語れかし

幾年前の 月の夜に

人気とだえし この山の

湖のほとりを ただ一人

泣きつつゆきし 人ありと

○ わかれては またも見じ
さらばきみ さきくあれ
風吹けば 風に舞ひ
はらはらと ひとり散る

このいのち このいのち
 ここかしこ さだめなし
 うらみなく 悔いもなし
 秋の葉の いきわかれ



そして、ポツカリ穴の空いた空虚な心を抱えて大学と下宿を往復し、学業とバイトに打ち込む淋しい学生生活の中で二十歳の誕生日を迎えた後、間なくして私が十代の、そして青春の一大イベントを体験した年の瀬は、何ごともなかったかの様に静かに暮れていったのでした。

彼女の面影はその後もずっと後をひき、折に触れて「思い悩む青春の一頁」を私にプレゼントしてくれました。そして交際復活の機会も一度ならずあったのですがその都度、惨めだった大学一年の夏休みの砂をか

むような日々が甦り、二人の交際の匂いはあの夏休みで終わったんだ」との思いや、裕次郎の「俺はおまえに弱いんだ」の一節ではないけれど、「…好きだと云えぬ なぜ云えぬ 古い傷あとあるからさ ただそれだけ…」と青春独特の感傷に浸って交際復活への一歩をためらい、五十余年を経た現在では、折に触れて胸の奥深くでうずく青春の甘酸っぱいふるきずとなっているのです。

「我が青春の傷心の夏休み」

に合掌



会員の皆様の
 近況報告抜粋
 (出身区・旧姓)

1 青木 進(横尾)

故郷を思う心は年令を重ねて益々強くなる今日この頃ですが、真田町の会の隆盛を祈念しています。

2 浅水みち子(入軽井沢・山宮)

会長はじめ役員の皆様いつもありがとうございます。

3 飯嶋啓治(秋)

山口元彦さんと同級生の飯嶋ですが、昨年同級会の時に東京真田町の会の話聞き、私も皆様とお会いしてどんなことをされているのか拝見したく山口様にお願ひした次第ですが、5/25は本家の子供の婚礼と重なってしまい、誠にすみませんが欠席をお願いいたします。

4 飯嶋徳麿(中組)

退会させて頂きます。益々のご隆盛を心からお祈り申し上げます。

5 飯嶋はる江(中横道・堀内)

皆様お世話になっております。私は元気で頑張っております。私退会させて頂きます。よろしくお願ひ致します。

6 石巻哲夫(曲尾)

申訳ございませんが欠席いたしました

す。よろしくお願ひします。会費はすぐにお支払いします。

7 石巻伸夫(曲尾)

御連絡いただき有難うございます。ご盛況をお祈りいたします。都合により欠席させて頂きます。

8 一之瀬恒雄(大日向)

身体は元気ですが、忘れることが多くなりました。皆様によりよくお伝え下さい。

9 市野つぎ子(秋)

当日福祉まつりのため出席できなくて残念です。市の長野県人会に入会して四年目、理事をしています。楽しく付き合っています。皆様によりよく。

10 井出道子(下原・南條)

大切な友人の法事と重なってしまい参加できませんが、会の盛会をお祈りします。

11 井上かつよ(田中・堀内)

新緑の美しい季節になりました。役員の皆様御苦勞様です。今回は他のイベントと重なり残念ですが欠席させて頂きます。

12 岩井泰子(中原・荻原)

ほおにあたる風が心地良く、すっかり新緑の美しい季節となりました。役員の皆様御力に本当に感謝致して居ります。去年は出席出来ませんでした。今年是非出席させていただきます。故郷の皆様との楽しい語らいのひとときを過ごす事を心待ちにしています。加齢を感じる事も時々有りますが何とか元気で過ごす事が出来す事に感謝の日々です。

に行なわれまます様に念じながら参加させていただきます。

13 岩崎みち子(菅平・正木)
いつも幹事の皆様にはお世話になります。いつもお世話になります。いつもお世話になります。

14 岩下 弘(下塚)

会の役員、たつた塚田恒雄君に紹介され加入させて頂きました。当人が居なくなり、それで降全くのご無沙汰です。昨年の会費は振込みますが、この辺で退会させて頂きたい。

15 上ノ山勝信(三島平・堀内)

都合悪く申訳ありません。今回は欠席させて頂きます。

16 上原佳和(中横道)

元気で。

17 内海辰三(大庭)

平凡な日々を過ごしております。

18 内海宏光(大庭)

御無沙汰しております。真田郷もやつと桜の季節となりましたが、天候は曇り・花冷え・春時雨を繰り返して、未だ当分石油ストーブ・コタツ、そして電気アンカは必要です。

しかし我が郷も四月の新年度を迎え、各種の「生涯学習講座」等が始まり、私は役場主催の「歴史探索」上田小県の中のさなだ」と「真田町郷土史研究会(会長 松尾吉隆)」に参加して故里の歴史に触れております。もう少し我慢すれば山菜採りの季節です。

19 大久保照男(大日向)

会長さん始め役員の皆様御苦勞様です。総会に出席させて頂きます。

で宜しくお願い致します。

20 大橋けさ子(菅平・山本)

役員の皆様お世話になります。一年振りに懐かしい方達にお逢い出来る事を楽しみに返事を書いています。宜しくお願い致します。

21 岡本一男(下横道・堀内)

退会させて頂きます。長い間、ありがとうございました。

22 荻原 學(真田)

役員の皆様のご尽力に添えず、本当に申訳ございません。市ヶ谷は上京後の最初の就職地でもあり、思い出が多くあります。

23 河合ふさよ(曲尾・海瀬)

役員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。今年こそはと思いつらなかなか出席できず残念です。秋の親睦旅行にでも行けたらと思っております。ご盛会を祈りながら失礼致します。

24 海瀬弘司(曲尾)

生憎予定があり、参加できません。ご盛会をお祈りします。

25 鹿志村外史

大変お世話になりました。種々の行事に参加させて頂き楽しませて頂きました。

今回、年齢的に参加が不可能になってしまいましたので、退会させて頂きます。会の発展を祈ります。

26 勝田昭子(田中・堀内)

東京真田町の会で東京に行くか？ 其れとも喜樂会のランドゴルフで千葉に行くか？ 日程が重なりました。一か月近く迷いました。4月28日

りぎりポストに投入しました。

27 川内知恵子(竹室・高寺)

長い間御世話になりました。体調が悪いので退会させて頂きます。今後とも盛会をお祈りします。

28 神林公三郎(竹室)

都合により欠席させて頂きます。

29 北沢正三(横尾)

御無沙汰しています。会長大役がなばつてるね！ 他用が多く出席できずごめん！ 今回は是非出席したいと思っておりますよ！

30 木南和世(中横道・堀内)

体調が悪いので申訳ありません。

31 久保定春(横沢)

会ヒ入金しました。

32 久保新一(角間)

ご盛会を祈ります。

33 倉島今朝二(角間)

役員の皆様には大変お世話様になっております。いつも楽しみにしておりますが、今年は町内行事と重なり、出席出来ず残念です。よろしくお願い致します。

34 倉島丈太郎(角間)

今期を以って脱退いたします。宜しくお願い致します。お世話に成りました。

35 倉島安三(角間)

幹事のみなさま、苦勞様です。今腰痛の為、不参加とさせて頂きました。

36 倉島忠好(上原)

会費のみ納入させて頂きました。

た。よろしく願います。

37 倉島義明(横沢)

残念ながら予定が入っており欠席します。皆様によりしくお伝え下さい。

38 倉持信郎(入軽井沢・小林)

5/21、5/22 信州上田別所温泉にて二七会が行なわれます。昨年は行なわれませんでしたので、今年はどうしても参加したいと思っております。

39 黒川宣子(中横道・半田)

しらかば通信ありがとうございます。故郷の母に逢いに月一回は行つてますが、やっぱり故郷が一番好きです。

40 小林勝美(入軽井沢)

家族旅行と重複する為欠席します。

41 小林公江(大日向・塩沢)

いつもお世話になっております。年齢を重ねるにつれ一年の速さを感じている此の頃です。皆様にお逢い出来ずのを楽しみにしております。

42 小林正子(下横道・堀内)

お元気でいらっしやいますか？ 皆様にお会いできる事を楽しみに出席させて頂きます。よろしく願います。

43 小宮山 寛(横沢)

80才を迎えて、今回で退会させて頂きます。大変御世話になり有難う御座いました。当会の益々のご発展をお祈り致します。

44 小山末江(萩・牧内)

役員の皆様、ご苦勞様です。行事が

重なり欠席させていただきました。

45 斉藤静子(中組・鳴沢)

体調の都合により脱会させていただきました。長期間お世話になりました。

46 坂口英一

大変申し訳ありませんが当日仕事があり、欠席させていただきます。

47 坂口武久(下原)

畑仕事中心の生活をしています。「ズク」と金が不足していて、郷里の皆さんのお付き合いが悪く、すみません。

48 桜井和子(下横道・中沢)

おかげ様で元気です。昨年11月に諏訪・白樺湖への旅行に参加させていただきました。良い思い出になりました。

49 笹沢けさむ(横沢・久保)

しらかば通信ありがとうございませう。真田町という名前を見てふるさとを思い出しております。これからも真田町の会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

50 佐藤宏次(田中)

大変申し訳ありません。地元のお会合とバッティングしてしまい、地元優先とさせていただきます。又次回にはよろしく願います。

51 佐藤哲雄(中組)

大変お世話になりました。この度諸事情により退会させていただきます。

52 椎名己津男(横沢・山口)

出席します。よろしく願います。

す。

52 塩澤六士郎(大日向)

「しらかば通信」いただきありがとうございます。故郷を離れて東京での生活が60年に成ります。ご活躍をお祈りいたします。

53 志野米子(大日向)

会長さん始め役員の皆様には大変お世話になりましたが、今回で退会させていただきます。色々な私用に追われておりまして、思うように動くことが出来ません。皆様のご健康をお祈り致します。

54 篠崎さく(大日向・大久保)

5月23日～5月26日まで四国剣山、石鎚山に行きますので出席できません。申しわけございません。

55 渋沢芳三(横尾)

ご案内恐縮です。毎度ながら歩行困難のため失礼します。皆様のご健勝を祈ります。

56 清水甫子(田中・金子)

出席させていただきます。皆様とお逢い出来る事たのしみにはしています。幹事の皆様大変御苦労様です。よろしく願います。

57 清水清晴(中横道)

「しらかば通信12号」で神林公三郎さんを拝見、平成3年6月の総会の時、当時の町議会議長の山宮袈裟成さんと終戦後始めてお逢いしたと私に話して喜んでおられた事を今でも忘れずに思い出しました。懐かしいなあ…

会のみずますの発展と皆様方のご健康ともう一つ、世界平和を祈念します。皆様によろしく。

58 清水貞夫(菅平)

毎日忙しく働いております。

59 清水民子(曲尾・上原)

久しぶりで出席致します。よろしく願います。

60 清水なか子(曲尾・海瀬)

役員の皆様本当にご苦労様です。感謝申し上げます。皆様にお逢いたいのですが、ここ三～四年色々な事が続きまして体調をくずしてしまいましたのでこの度も残念ですが出席できません。会の発展を心よりお祈り申し上げます。

61 清水征夫(中原)

会報いつもありがとうございます。

62 杉崎寿三男(菅平)

大変残念ですが今回は欠席させていただきます。皆様にご挨拶をさせていただきます。

63 杉崎博明(菅平)

都合がつかず出席出来ません。残念です。

64 鈴木郁夫(横尾)

今年是他の用件と重なり残念ながら参加出来ません。真田町会益々のご発展をお祈り申し上げます。

65 鈴木民子(竹室・高寺)

いつもお世話になって居ります。役員の皆様準備大変なことと思えます。いつも六月でしたので出席出来ると思っておりましたが、5月25日

ですと娘の出産と重なってしまいそうですので、残念ですが欠席させていただきます。又来年を楽しみにして居ります。

66 関谷トヨ子(戸沢・山田)

役員の皆様には真田町の会のために種々ご配慮いただきありがとうございます。低呼吸機能のため、ケイタイ酸素をもち歩くように云われているのに、体重は足のむくみから8kgも増えてしまいました。「達者なのはクチだけ」という最低の状況です。お目にかかれるのを楽しみにいたしております。

67 高柳キ又(横沢・栗林)

元気で働いております。月日の都合がつかない為、欠席いたします。

68 滝沢富士子(下横道・半田)

老人とは思いたくありませんが、この頃、実感しております。皆様のご健康をお祈り申し、ご活躍の程をお祈りいたします。

69 田中静江(大庭・内海)

役員の皆様、会のお知らせをいつもありがとうございます。毎年もう最後にしたいと思うのですが、懐かしい皆様のお顔が目につくので、つい老体を恥じながらも出席させていただきます。会場まで30分程度着く所に居りますのに今までに欠席もあつたりして申し訳なく思っております。二十五日は元気で目にかかりたいと思っております。

70 田中恒夫(横尾)

皆様ご苦労様です。都合が悪く欠

席させて頂きます。皆様によろしくお伝え下さい。

71 塚田 靖(菅平)

「毎日が日曜日」かと思つていたのですが、雑用が多くなかなか時間が作れません。先日演奏会の本番が終わり、その後始末をしています。皆様によろしくお伝え下さい。

72 角田照水(中横道)

退会します。お世話になりました。

73 中沢欣(下横道)

一年間は早いもので又総会の時期がまいりました。役員の皆様には大変ご苦勞な事と存じます。今回も賑やかに開催出来るよう祈念いたして居ります。

74 田中すみ子(菅平・若林)

しらかば通信をお送りいただきありがとうございます。加齢によりまして出かけられませんが、病人も抱えておりますので退会したいと思ひます。よろしくお願ひします。

75 中村洋子(田中・木下)

役員の皆様いつもありがとうございます。

4月5日、6日と一泊で万座温泉に孫(男・二歳)を連れて行き、帰りに傍陽の墓参りをしました。万座側からの浅間山は真白でピカピカ、上田からはしまでした。碓氷峠からこつちは、桜が満開でお天気も良く最高のドライブでした。おそば屋(そばの花)の店長さんが私を見た気がするというので、真田町の会に

出ていると言ったら(真田町の会の写真で見たんだ)と納得してしまいました。やっぱり真田町の会はふるさととつながっているんですね。

76 長屋京子(菅平・宮沢)

今年も体調不調の為欠席致します。

77 永山義子(中横道・八木)

真田町の会の便り、ありがとうございます。真田町の会に

78 萩原節子(大庭・花園)

いつも御連絡ありがとうございます。

79 萩原清人(萩)

あいにく所用のため出席できません。申し訳ありません。

80 橋詰吉万雄(中組)

日本ダボス、そしてしらかば通信いつも楽しみにしております。去る4月17日、18日に小学校の同級会で戸倉上山田温泉に行つて来ました。出席者30人、いつもながら健康で出席出来た事に喜びを感じております。

81 半田幸一(田中)

昨年6月より一人暮らしをして居りますが、今の処何とか過して頑張つて居ります。

久し振りに出席させて頂き、傍陽の事、幼い頃の良い時代の事等語り合いたいと存じます。幹事の皆様本当に御苦勞様ですが宜しく御願ひ申し上げます。

82 半田幸弘(中横道)

なつかしい会合です。出席します。よろしく

83 花園節雄(横尾)

元気でやっています。真田町の会のご発展をお祈りします。皆様によろしく

84 久野けさ志(中横道・堀内)

役員の皆様いつもお世話様です。理事の為、欠席致します。

85 堀井けさ子(田中・堀内)

いつも御苦勞様です。このたび家をリフォームするため4ヶ月ばかり引越さなければならぬので出席できません。よろしくお願ひします。

86 堀内五十六(中横道)

中横道出身で昭和18年生まれです。3年程前に萩原啓治さんに同級でもあり紹介頂きましたが、なにせ中小企業にまだ現役で勤務致して居りまして、残念ながら会に参加出来ずに居ります。申し訳ございません。会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

87 堀内實男(田中)

10年ほど前にTelで脱会の連絡をしておりますが、それ以降も冊子等が届いております。今後は不要ですのでよろしくお願ひ致します。

88 堀内照美(上横道)

忙しさにかまけて、封書を開封するのが遅くなり、すでに総会は終わってました。(大変失礼致しました)数年前にもお話ししたと思ひますが、アルカディア市ヶ谷で会員9000円は高いと思ひます。連合会主催の催しても会員7000円です。

連合会の我山さんの紹介(声がかかりもあつたように聞いていますが)がなものでしょう？

全々協力していかない私が口を出す事ではないと思ひますが、ご無礼をお許し下さい。

89 堀内寅次(中横道)

いつもお世話様です。幹事の皆さんのお陰で皆さんにお会いできる事を厚く感謝申し上げます。

90 堀内寿美(上横道)

いつもたいへんお世話になり誠に有難うございます。結婚式(元事務アルバイトさん)の予定が入っておりますので早退(14時頃)をさせていただきます。よろしくお願ひを申し上げます。

91 堀内秀夫(下横道)

申し込みの葉書が遅れてすみません。家の中や小さな敷地内は自由に歩けますが裏の駐車場に寝ること時々です。でも、今年こそ参加したいと役場で借りた車椅子に乗り、遅れていた会費納入に郵便局に一人で行きました。道路が悪く転びそうになり他人の手を借り、学校の塀に衝突し、でもとても良い経験でした。車椅子の手配ありがとうございます。

92 堀内正昭(下横道)

会を退会します。長い間お世話になりました。

93 堀内幹本(上横道)

地元文化「桐生からくり人形芝居」の復元と実演に力を入れて居り

ます。結構楽しんでいきます。今回も出席出来ませんが、皆様によろしくお願ひします。

94 牧内 操(菖)

廃屋寸前の故郷の家を昔の通りに建て直して5年経ちましたが、誰も住む人が居らず、そのままになっていきます。何か上手い活用法があったら教えてください。

95 牧内泰男(菖)

体調不良のために出席が出来ず残念です。

96 松井志ず江(萩・柳澤)

残念ですが予定が入っており出席出来ません。皆様によろしくお伝え下さいませ。

97 松尾一夫(真田)

いつもありがとうございます。会費を送ります。よろしくお願ひします。

98 松尾 昭(真田)

他の行事と重なり失礼します。

99 丸山廣義(曲尾)

ご返事が大変遅くなりまして申し訳ありません。皆様方とお逢い出来る事を楽しみにしておりましたが、所用があり欠席させて頂きます。役員および出席の皆様のご健康とご多幸をお祈り致しますと共にご盛会をお祈り申し上げます。

100 三田文子(赤井・小林)

仕事(セブンイレブン経営)の都合上何事にも参加できませんので退会させて頂きます。誠に申し訳ござい

ません。

101 三井 周(大庭)

世相様々、又体調もいろいろですが、近い(足場が)ので懐かしい故郷の香りをもらいに伺います。

102 三井史子(中組・三井)

申し訳ございません、会費をまだ納入しておりません。なるべく早く納入いたしますのでよろしく。又、出席出来ません。ヨロシク

103 三井芳郎(大庭)

5月25日の総会を楽しみにして居ります。

104 壬生とりよ(戸沢・宮島)

都合により出席出来ませんが会の御発展を心よりお祈り致します。今回限りで退会させて頂きます。長い間ほんとうに有難うございました。

105 宮崎次雄(横尾)

体調不良のため総会にも出席できず、ご迷惑をおかけするばかりなので脱会したいと思ひます。長い間お世話になりました。有難うございました。会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

106 宮崎十人重(菅平)

いつもお世話様です。よろしくお願ひ致します。

107 宮下毅士(真田)

昨年11月から子供家族と同居しております。新しい家に移り、楽しく生活しております。参加したいと思ひながら都合がつかず残念です。

108 宮田マキエ(戸沢・柳沢)

白内障手術のため欠席、皆様によるしく、いつまでもお元気で：

109 武捨昭二(中組)

大変申し訳有りませんが都合つかず欠席させて頂きます。

110 武捨宣夫(中組)

お世話様になります。宜しくお願ひします。

111 武捨幹男(中組)

出欠おかれて申し訳ないです。

112 武捨衛人(中組)

近年は会員の皆様からいただいた加齢のための退会のご連絡をパソコンにインプットすることが多くなりさびしい限りです。私も還暦から一巡して居ります。

113 武捨義隆(中組)

循環器不調で通院中

114 村上清子(荒井・小市)

身体の調子が悪くて出席できません。今後総会の案内・会誌など一切お断り致します。

115 森田文子(下原・坂口)

役員の皆様にはお世話になります。楽しみに出席させて頂きます。私共の市原市長野県人会も21回となり、先日総会等が終わりました。幹事役となりましたが、今更ながら役員の皆様の大変さがわかる気が致しました。今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

116 森本幹生(入軽井沢)

盛会でありますように！！「真田

町が生んだ画家展」を友人の企画により、秋の祭りに合わせてやる事になりました。町民の皆様のためにも、良い展覧会にしたいと思っている次第です。

117 八木五郎(中横道)

中村洋子姉さんに、月一の山登り、年一回の総会どっちかが大事か？って怒られちゃったけど。通勤の自転車から歩いての往復16〜17kでの筋トレがどうなるか？アルプスに挑戦します。堀内寿美ちゃん幹事にこの胸しかと伝えてあります。汗の後のさわやかさ。今ハマッテます。56ちゃんより

118 安田 尚(下原・山崎)

山崎 尚から安田 尚に改姓しました。会費が未納で申し訳ありませんでした。本日送金しました。

119 安田美智子(入軽井沢・山宮)

21回総会と懇親会のお誘い感謝いたします。出席するようになって三年目になりました。顔見知りになり次回の再会を約束、心待ちにする楽しみも増えました。ありがとうございます。

120 柳沢喜三郎(菖)

役員の皆様例年のことながら大変御苦労様です。盛会をお祈り申し上げます。

121 柳沢俊美(戸沢)

当日都合が悪く欠席します。

122 柳澤 實(菖)

心待ちの総会、又近ずきました。

皆様方の笑顔にお逢いできますこと
楽しみにしています。お世話になり
ますが、よろしく

123 柳沢郁政(戸沢)

よろしくお願います。

124 柳橋米子(下横道・内川)

いつもお世話様です。町会の行事
と重なって残念ですが、欠席させて
いただきます。ダボスは楽しみにし
ております。

125 山口敬一(大日向)

会費未納、失礼致しました。20・
4・9振込みいたしました。

若い人達の参加が少ないようです
が：

126 山口久子(曲尾・清水)

変わらず元気で過しています。連絡
いつもありがとうございます。

今日はふるさとを思い出すことが、
ふたつもありました。姉がふきのと
うを送ってくれ、思う存分信州を想
い出し乍ら、春を楽しんだこと。も
うひとつ真田町会のこと。一日中弾
む心で過ごせました。

127 山田優佳(大畑・横沢)

遅くなりまして、申しわけありま
せん。先日のゴルフでは、皆様に大
変お世話になりました。今後も宜し
くお願い致します。

128 山宮敏男(入軽井沢)

役員の皆様お世話様になります。
残念ですが都合により出席できませ
ん。皆様に宜しく、元気です。

129 山本道子(大庭)

会長さんはじめ役員の皆様いつも
御苦労様です。今年も出席させて頂
きます。

130 横沢武久(大畑)

遅くなってすみません。

131 横沢武典(大畑)

大変遅くなり申しわけありません。
よろしくお願います。

132 横沢義雄(大畑)

町内連合の自治会長の仕事が忙し
く、毎日の様に出かけており2・3
年は出席できませんが、自治会の仕
事が無くなりましたら又出席させて
いただきます。

133 森田文子(下原・坂口)

役員の皆様にはお世話になります。
楽しみに出席させて頂きます。私共
の市原市長野県人会も21回となり、
先日総会等が終わりました。幹事役
となりましたが、今更ながら役員の
皆様の大変さがわかる気が致しまし
た。今後とも宜しくお願い申し上げ
ます。

134 若林 豊(赤井)

都合により欠席します。

135 和田美木子(？・荒井)

出席します。遅くなり申し訳あり
ません。

136 山口和明(大日向)

今回で退会致します。「しらかば通
信」便り、長きに渡り有難う御座い
ました。東京真田町の会の益々の発
展をお祈りします。

次回総会の予告

平成21年の総会、懇親会は5月24日(日)、アルカディア市ヶ谷(私学
会館)で開催の予定です。大勢の会員の皆様のご出席を頂きますようお待
ち申し上げております。

詳しくは4月に発行の「しらかば通信」第13号でお知らせいたします。

年会費納入のお願い

平成20年度の年会費千円を未納の方は、同封の郵便振替用紙にてお振
込み下さい。振り込み料は無料です。よろしくお願致します。

広告 御礼

日本ダボス第21号の発行にあたり広告をお願い致しましたところ、大
勢の皆様のご協力を頂きました。大変有難く、厚く御礼申し上げます。

新会員、ご紹介のお願い

会員の皆様にはいつも会の運営にご協力頂き誠に有難うございます。
会員相互の出会いと親睦、そしてふるさと真田町との交流の親密化を目
的に誕生した東京真田町の会も、二〇年余りの歴史を刻み先輩役員のご
努力、会員の皆様のご協力、そして旧真田町並びに新生上田市当局のご
支援により一人前の同郷会に成長しつつあり、ご同慶の至りでございま
す。

この東京真田町の会が更に充実し、発展し続けるためには会員の増加
が何にもまして重要と思われれます。皆様の友人、知人の中に東京真田町
の会の会員に推薦できる方が居られましたら、会長または役員まで是非
ご一報頂きたく、よろしくお願致します。

連絡先 中島 正江

〒158-0091 東京都世田谷区中町四―三三―一七 E

TEL・Fax 03-3702-1385

平成19年度 決算報告書

H19年3月14日～H20年3月13日

(単位：円)

収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
通常年会費収入	650,000円	296,000円	総会費	1,300,000円	714,960円
総会懇親会費収入	1,300,000円	727,000円	会報発行費	500,000円	465,000円
上田市補助金	300,000円	300,000円	事業費	500,000円	42,452円
広告収入	750,000円	375,000円	事務通信費	400,000円	176,972円
寄付金等収入	150,000円	10,000円	印刷費	150,000円	12,285円
利息等雑収入	117,567円	2,918円	会議費	200,000円	63,015円
			渉外費	150,000円	75,750円
			交通費	100,000円	20,660円
			雑費・手数料	50,000円	41,135円
			予備	150,000円	
当期収入合計		1,710,918円	当期支出合計		1,612,229円
前年繰越額	232,433円	232,433円	次期繰越額		331,122円
合計	3,500,000円	1,943,351円	合計	3,500,000円	1,943,351円

上記の通り収支決算報告いたします。平成20年3月13日 会計 堀内 寿美 印
 上記の決算報告書は適正かつ真実であるものと認めます。 監事 深町 共栄 印
 監事 堀内 幸 印

平成20年度事業計画

- ① 第21回総会及び懇親会の開催(平成20年5月25日)
- ② 会報「日本ダボス」第21号の発行
- ③ 広報紙「しらかば通信」の発行
- ④ ホームページの運営
- ⑤ 会員旅行会、ゴルフ会、マレットゴルフ会等会員相互の親睦をはかる行事の実施
- ⑥ 真田地域との交流促進のため、ふるさと訪問、ふるさと特産品の宅配協力、各種文化・スポーツ行事の実施と参加
- ⑦ その他

平成20年度収支予算

平成20年4月1日～平成21年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
通常年会費収入	650,000	総会懇親会費	1,300,000
総会懇親会費収入	1,300,000	会報発行費	500,000
上田市補助金	300,000	事業費	500,000
広告収入	750,000	事務通信費	400,000
寄付金等収入	150,000	印刷費	150,000
利息等雑収入	18,878	会議費	200,000
		渉外費	150,000
		交通費	100,000
		雑費・手数料	50,000
前年度繰越金	331,122	予備費	150,000
収入合計	3,500,000	支出合計	3,500,000

「東京真田町の役員名簿」

(平成20年12月20日現在)

職名	氏名
会長	中島正江
副会長	飯島慶三郎 山口元彦 柴田小夜子
理事	監事 深町共栄 堀内 幸
	事務局長 (山口副会長兼務)
	会計理事 堀内寿美
	荻原啓治 金子 誠 鈴木邦子 堀内 福 武捨衛人
顧問	小林孝雄 清水清晴 三井芳郎 塩沢和政

～会員消息～ (敬称略)

〈改姓〉

安田 尚(旧姓山崎) 〒188-0011 東京都西東京市田無町 4-18-9 (本原)

〈住所変更〉

太田 秀則 〒264-0028 千葉県若葉区桜木 2-10-5 (本原)

宮下 毅士 〒317-0061 茨城県日立市東町 3-1-3 (長)

山本 香織 〒177-0033 東京都練馬区高野台 4-4-22 (本原)

横沢 昌晃 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北 1-6-7 (本原)

横沢美智子 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北 1-6-7 (本原)

〈表示変更〉

武捨 義隆 〒336-0042 埼玉県さいたま市南区大谷口 1290-8 (傍陽)

〈退会〉

長い間、会に御協力下さり有難うございました。くれぐれも健康にご留意下さい。

飯嶋 徳磨・飯嶋はる江・岩下 弘・岡本 一男・鹿志村外史・亀原けさ子・川内知恵子

倉島丈太郎・小林美喜子・小宮山 寛・小山 礼子・斎藤 静子・佐藤 哲雄・塩沢六士郎

志野 米子・角田 照水・関 輝雄・関谷 道義・永井 哲夫・中田すみ子・南雲 圭子

能勢 碩男・広沢 栄子・古市 始・堀内 堯雄・堀内 実男・堀内 正昭・堀内 賢

松井智津子・三田 文子・壬生とりよ・宮崎 次雄・宮島 寅雄・村上 清子・山口 和明

〈逝去〉

会員一同、心よりご冥福をお祈り致します。

阿部 春枝・飯嶋 きよ・一之瀬幸市・荻原 浩・渋谷 元則・田中 弥作・永井 守寿

堀内 茂雄・横沢新二郎・大久保袈裟明

〈転居先不明〉 石巻 政治・坂口 弘・鈴木 金春

〈部屋番号不明〉 清水 文子

・・・・・・・・・・投稿・寄稿のお願い・・・・・・・・・・

日本ダボス 22号・しらかば通信 12号への投稿・寄稿をお待ちしております。感想文・紀行文・思い出・近況など、日本ダボスは2,400字以内、しらかば通信は800字以内で、ご連絡は次の担当理事までお願いします。

広報担当理事 武捨 衛人

〒359-1145 埼玉県所沢市山口 5040, 39-5-405

Tel & Fax : 04-2949-4776 mail:m-musya@nifty.com

編集後記

『日本ダボス第二一号』を本日お届け致します。最初に貴重な原稿をお寄せいただいた皆様から御礼申し上げます。昨年、二〇周年記念号発行に際して大勢の皆様にご投稿をお願いした結果、今回は掲載記事の集まりが芳しくなく原稿集めに四苦八苦しましたが、お蔭様でなんとか昨年並みの四〇頁に漕ぎつける事ができました。

上野池之端の文化会館に集い、同郷会設立を喜び合った昭和六三年九月一〇日から満二〇年余り、そして戦後六十余年、わがふるさと村から町そして市へと変わり、新幹線の開通、さらにイーメール・チャット・スカイプなどパソコン技術の普及もあって、国内は勿論、世界の隔たりも縮小の一途を辿っており、室生犀星の『ふるさと』は遠くにありて思ふもの…の時代は遠ざかるばかりですが、若き日にあとした心の中の『山美しく水清きふるさと』はいつまでも『ふるさと』の山に向いていこうと、ふるさとの山はありがたきかな』の故郷であり続けて欲しいものです。

日本ダボスは従来から発行費用の一部に充当するために、会長以下の役員の皆様にご名刺サイズの広告掲載をお願いして参りましたが、誤解を招きやすいと言うことで第二一号から広告掲載を中止し、広告費相当額のご寄付をお願いする方式に変更することになりました。役員の皆様には本当に長い間ご協力戴き有難うございました。また今後ともよろしくお願い致します。

末筆で恐縮致しますが、上田市議会事務局の市村誠様並びに真田地域自治センター、地域振興課の宮島剛様、お忙しい時期に格別なご協力を頂き大変有難う御座いました。厚く御礼申し上げます。

原稿集めにご協力頂いた理事の皆さん、編集スタッフの皆さん大変お世話になりました。(武捨記)

祝 東京真田町の会 —会報21号—



ロシア料理 渋谷ロゴスキー

プラザ店のご案内

URL : <http://www.rogovski.co.jp/>
E-mail : rogovski@rogovski.co.jp

副社長
調理部長

長屋京子

セントラル
キッチン

東京都世田谷区弦巻5-14-25
03(3428)7284 FAX03(3426)4466
自宅 : 03(3428)4194

ゆったりとしたくつろぎ

アットホームなやすらぎ

シック&カジュアル

ビルの最上階は最高のロケーション。窓際のお席では
眼下に渋谷の街並みが広がります。

20~25名様程の着席パーティーに最適なコーナーが
ございます。是非種々の会合にご利用下さい。

室料(貸切り料)、サービス料
いっさい無し

AM11:00~PM10:00 (ラストオーダーPM9:30) 年中無休

PHONE 03(3463)3665
渋谷駅南口バスターミナル前
渋谷東急プラザ9F・味の名店街



TOY'S FACTORY

Imaginations are free and fun,
and excitements more wonderful and much greater

"発想は自由に楽しく、そして感動は素敵に、より大きく"

- Mr. Children
- ケツメイシ
- BUMP OF CHICKEN
- RAG FAIR
- ゆず
- melody.

株式会社 トイズファクトリー 代表取締役 井出 孝光

人と地球に思いやりある環境づくりを目指して 資源愛護と環境保全は企業の責任

一般貨物運送事業、リサイクル推進事業、一般・産業廃棄物収集運搬

ISO9001・ISO14001 認証取得

H14環境保全功労環境大臣賞受章

東京都知事賞 受賞・板橋区環境保全優良事業所

みすゞ興業株式会社

代表取締役 荒木 廣之 (真田町下原出身)

〒174-0041 東京都板橋区舟渡2-10-7 TEL 03(3966)2422 FAX 03(3966)2423

自宅 TEL 03(3965)4692

祝 東京真田町の会 —会報21号—

<p>土地・建物・測量・登記 飯嶋測量事務所 土地・家屋調査士 飯嶋 義道 (中組出身) 〒230-0072 神奈川県横浜市鶴見区梶山 2-38-11 ☎ 045-581-0324 FAX 045-571-8432</p>	<p>貿易物流研究所所長 東京真田町の会 顧問 小林 孝雄 (曲尾出身) 〒234-0051 神奈川県横浜市港南区日野 4-45-5 ☎ 045-843-8041</p>
<p>齋藤指圧治療院 齋藤 勇一 (真田出身) 〒156-0043 東京都世田谷区松原 5-56-10 シャポール東松原 301号 ☎ 03-3322-6622</p>	<p>東京真田町の会 顧問 塩沢 和政 (大日向出身) 〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田 1074-37 ☎ 047-450-3348</p>
<p>東京六二会戦友会会計理事 東京真田町の会 顧問 清水 清晴 (中横道出身) 〒201-0002 東京都狛江市東野川 3-12-2 ☎・FAX 03-3489-0763</p>	<p>オートマタ(西洋からくり)製造・販売 いくさ工房 鈴木 郁夫(横尾出身) 〒336-0034 埼玉県さいたま市南区内谷 4-13-7 ☎・FAX: 048-864-0295, mail: s-ikusa@dab.hi-ho.ne.jp http://www.dab.hi-ho.ne.jp/s-ikusa/</p>
<p>新鮮青果.com 代表者 中島 偉充 Yorimitsu Nakajima 〒158-0091 東京都世田谷区中町 4-35-17E ☎・FAX 03-3704-7875 E-mail: info@shinsenseika.com URL: http://www.shinsenseika.com</p>	<p>東京海上日動火災保険株式会社 代理店 東京海上日動あんしん生命保険株式会社 代理店 堀内インシュアランスサービス 代表 堀内 寅次 〒337-0032 さいたま市見沼区東新井 939-64 ☎ 048-685-5282 FAX 048-687-9122 携帯 090-1120-4058 http://www.tokio_nichido.com</p>
<p>東京真田町の会 顧問 三井 芳郎 〒386-2203 長野県上田市真田町傍陽 11510 ☎ 0268-73-2616</p>	<p>国画水墨院常任理事 (元)日本選抜美術家協会常任理事審査員 国画院会員、師範 森本 幹生 (入軽井沢出身) 〒211-0062 川崎市中原区小杉陣屋町 1-6-8 ☎ 044-733-0267</p>
<p>御殿場市・小山町 長野県人会 顧問 柳 沢 喜三郎 (萩出身) 〒412-0045 静岡県御殿場市川島田 748-2 ☎ 0550-83-0081</p>	<p>御芳志御礼 会報誌「日本ダボス」発行資金として下記の 役員の皆様より各一万円の御芳志を頂戴致し ました。 中島正江様 飯島慶三郎様 山口元彦様 柴田小夜子様 堀内寿美様 深町共栄様 堀内 幸様 荻原啓治様 金子 誠様 鈴木邦子様 堀内 福様 武捨衛人様</p>

祝 東京真田町の会 —会報21号—

社団法人 日本証券アナリスト協会 主催

一般個人向け会社説明会を 定期的に開催しています！

社団法人 日本証券アナリスト協会では、個人の資本市場参入促進への取り組みの一環として、一般個人向け会社説明会を定期的に開催しています。上場企業の経営陣から事業内容や経営方針、業績見通し等を直接聞くことができる絶好の機会です。是非ご参加ください。

第8回 平成21年1月26日(月)～30日(金)の5日間

第9回 平成21年3月9日(月)～13日(金)の5日間

☆ 開催予定社数：各回20社（1日4社開催）

☆ 時間：13：00～16：50

☆ 会場：当協会会議室

（東京証券取引所ビル6階）

☆ 参加募集人員：先着200名（参加費無料）



申込方法等の詳細は当協会ホームページ
(<http://www.saa.or.jp>) をご覧ください。

IRクラブのメンバー登録受付中！ お申込みはインターネットで

満18歳以上の個人の方ならどなたでも

- ・アナリスト向け会社説明会や講演会の要旨がホームページ上で閲覧できます
- ・講演会の要旨を取りまとめた冊子を定期的にお届けします
- ・講演会・セミナーに協会会員と同料金で参加できます

（年間参加費8,000円）

お問い合わせ先



社団法人 日本証券アナリスト協会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町2-1（東京証券取引所ビル5階）

TEL：03-3666-1632 FAX：03-3666-6610

E-mail：i-kaisai@saa.or.jp

ホームページ：http://www.saa.or.jp

当協会では個人の資本市場への参入を推進しています。

懐かしの流行歌・歌謡曲・演歌

・・・～昭和10年・・・

雨に咲く花 関 種子

およばぬことと 諦めました
 だけど恋しい あの人よ
 儘になるなら いま一度
 ひと目だけでも 逢いたいの

別れた人を 思えばかなし
 呼んでみたどて 遠い空
 雨に打たれて 咲いている
 花がわたしの 恋かしら

影を慕いて 酒は涙か溜息か
 丘を越えて 涙の渡り鳥
 山は夕焼 サークスの唄
 緑の地平線 二人は若い

・・・～昭和20年・・・

別れ船 田端義夫

名残りつきない 果てしない
 別れ出船の かねが鳴る
 思いなおして あきらめて
 夢は潮路に 捨ててゆく

希望(のぞみ)遥かな 波の背に
 誓う心も 君ゆえさ
 せめて時節の 来る迄は
 故郷(くに)で便りを 待つがよい

人妻椿 湖底の故郷
 悲しき子守唄 島の船歌
 上海の花売り娘 旅の夜風
 誰か故郷を想わざる 新妻鏡
 明日はお立ちか 南の花嫁さん
 ラバウル小唄 リンゴの唄

・・・～昭和25年・・・

三百六十五夜 霧島/松原

みどりの風に おくれ毛が
 やさしくゆれた 恋の夜
 初めて逢うた あの夜の君が
 今は生命を かける君

鈴蘭匂う 春の夜
 灯火(ともしび)うるむ 秋の夜
 泣いた 三百六十五夜の
 愛の二人に 朝が来る

かえり船 東京の花売娘
 啼くな小鳩よ 夜霧のブルース
 山小舎の灯 湯の町エレジー
 流れの旅路 玄海ブルース
 青い山脈 月よりの使者
 麗人草の唄 かよい船
 白い花の咲く頃 山のかなたに

・・・～昭和30年・・・

涙の夜汽車 真木富士夫

暗いシートで 肩寄せ合せて
 結ぶ仮寝は せつないものよ
 恋のためなら 都の夢も
 捨ててわびしい 故郷へ帰る
 心もとない 涙の夜汽車

僕にゃ故郷も お前には他国
 たよりなかるよ 淋しかりょうよ
 夢で泣いてか 二筋三筋
 白い寝顔に 流れる涙
 つる夜嵐 涙の夜汽車

高原の駅よさようなら 赤いラン
 プの終列車 小島通いの郵便船
 丘は花ざかり 東京の椿姫 あな
 たと共に あの丘越えて この世
 の花 さすらいの船歌 あの日の
 船はもう来ない 待ちましょ

・・・～昭和35年・・・

哀愁の町に霧が降る 山田真二

日ぐれが青い灯つけてゆくて 宵の十字路
 泪色した 霧が今日も降る
 忘れられぬ瞳よ
 呼べど並木に 消えて
 ああ 哀愁の街に霧が降る

せつなくふるふる身も細る 霧の十字路
 窓を漏れくる 唄もすすりなく
 なつかしの ブローチ
 肌につめたく 沁みて
 ああ 哀愁の街に霧が降る

港町十三番地 古城 柿の木坂の
 家 東京ナイトクラブ 東京の人
 よさようなら 有楽町で逢いまし
 ゃう 好きだった からたち日記
 東京のバスガール 東京の人
 花笠道中 知床旅情

・・・～昭和40年・・・

ああ 上野駅 井沢八郎

どこかに故郷の香りをのせて
 入る列車のなつかしさ
 上野は俺らの心の駅だ
 くじけちゃならない人生が
 あの日ここから始まった

就職列車にゆられて着いた
 遠いあの夜を思い出す
 上野は俺らの心の駅だ
 配達帰りの自転車を
 とめて聞いている国なまり

高校三年生 いつでも夢を
 赤いハンカチ 下町の太陽
 夕陽の丘 長崎の女
 銀座の恋の物語 涙の連絡線
 青春の城下町 アンコ椿は恋の花
 美しい十代 二十歳の詩集
 星空に両手を 女心の唄

・・・～昭和50年・・・

夜霧の慕情 石原裕次郎

愛しても 愛しても
 愛しきれない 君だった
 夜霧の中に
 泣いてかくれて 消えたまま
 帰らぬ面かけ ああ 涙の瞳

いつの日か いつの日か
 逢えるあてない 恋だけど
 せめても祈る
 君の幸せ そればかり
 夜霧にむせぶよ ああ 男の慕情

星影のワルツ 君がすべてさ
 小樽の人よ 夜霧よ今夜も有難う
 さよなら列車 港町・涙町・別れ町
 ふるさと 瀬戸の花嫁 せんせい
 さだめ川 おまえに
 わたしの城下町 北の宿から

・・・～昭和64年・・・

北国の春 千 昌夫

白樺 青空 南風
 こぶし咲くあの丘 北国の ああ北国の春
 季節が都会では わからないだと
 届いたおふくろの 小さな包み
 あの故郷へ 帰ろかな 帰ろかな

雪どけ せせらぎ 丸木橋
 落葉松の芽がふく 北国の ああ北国の春
 好きだとおたがいに 言いだせないまま
 別れてもう五年 あのこはどうしてる
 あの故郷へ 帰ろかな 帰ろかな

千曲川 大阪しぐれ 夢追い酒 お
 もいで酒 みちずれ ふたり酒
 ブランディーグラス 大阪ラブソデ
 ィー さざんかの宿 木曾路の女
 長良川艶歌 矢切の渡し
 北の旅人 細雪 ふたりの大阪

・・・平成1年～・・・

恋挽歌 伍代夏子

日暮れまじかの 駅裏通り
 指でふきとる 涙つぶ
 あなたいいのよ 背中を向けて
 きれいごと等 言わないで
 夢もつかのま 夢もつかのま
 あ～ 恋挽歌

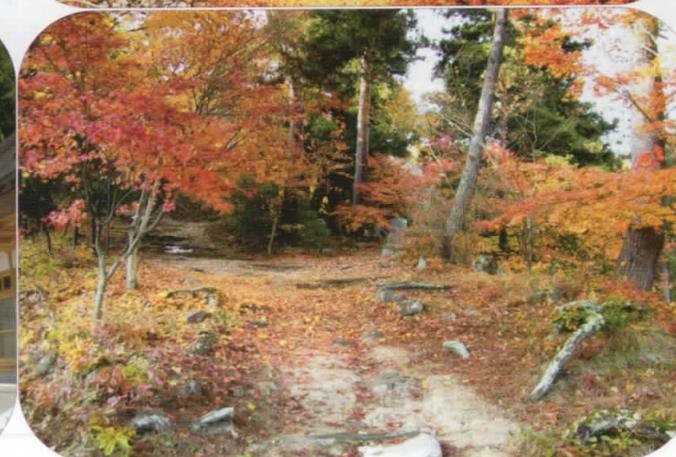
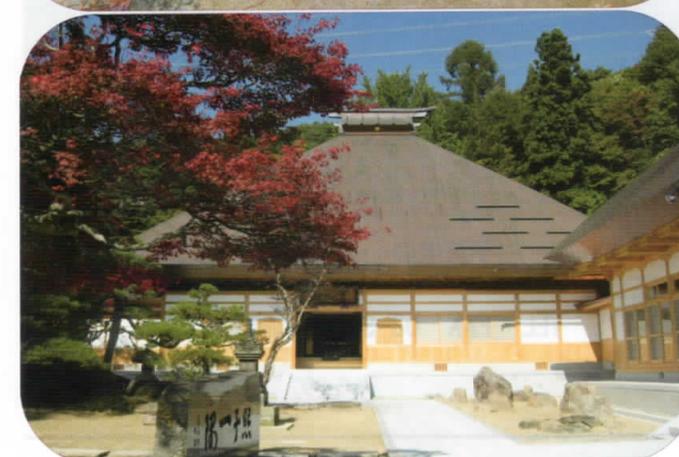
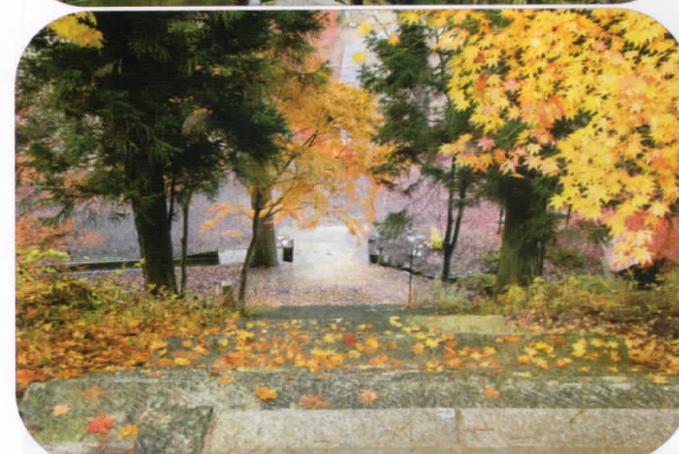
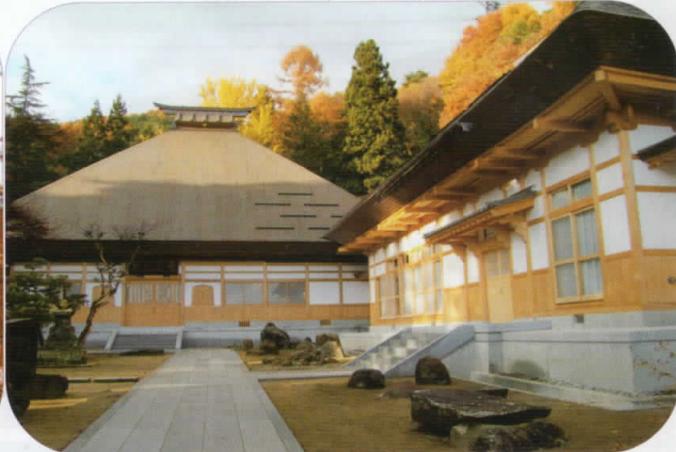
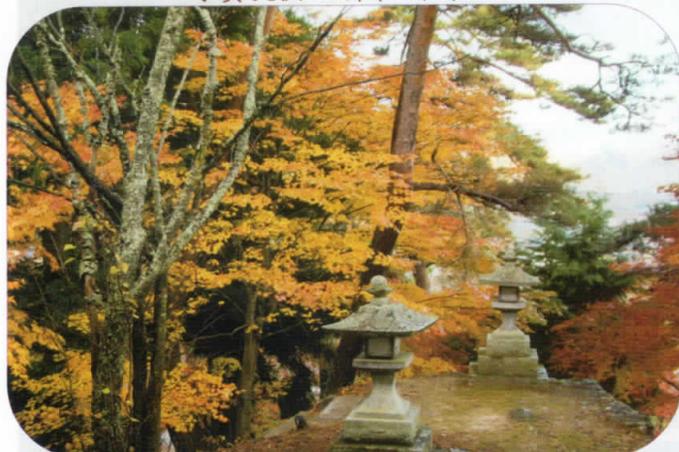
ひとり手じゃくの お酒とかけて
 橋の通わぬ 川ととく
 渡りきれない あなたの胸に
 酔えば切なく なるばかり
 咲くに咲けない 咲くに咲けない
 あ～ 恋挽歌

忍ぶ雨 霞見坂
 しのび川 俄か雨
 雪中花 おんな
 ころ酒 むらさき雨情
 大阪無情

ふるさとの風景 2 金繩山実相院

写真提供:三井和哉氏

写真撮影:編集部 武捨 衛人





ふるさとの古城緑地広場



日本ダボス 平成20年12月20日発行 (写真撮影 : 編集部 武捨 衛人)
発行 東京真田町の会 会長 中島 正江
〒158-0091 東京都世田谷区中町 4-35-17E TEL・FAX 03-3702-1385
編集委員 武捨 衛人 鈴木 邦子 堀内 幸
印刷 上田市・(有)アオヤギ印刷